

皆様のお役にたちたい
いつまでも

2011ディスクロージャー誌

香川県信用組合の現況

好きです ふるさと 心のふれあい大切に



KENSHIN



好きです ふるさと 心のふれあい大切に



〒760-0050 香川県高松市亀井町9番地10
TEL : 087 (833) 3311 FAX : 087 (834) 2646
ホームページ <http://www.kagawaken.shinkumi.jp/>

●● 役職員行動規範

1. 信頼の確保

- (1) 私たちは、良識をもって、節度ある行動に努めます。
- (2) 私たちは、社会の一員として、各種の法令や組合内外の規則を遵守するとともに、その精神を理解し、尊重します。
- (3) 私たちは、誠実に行動することにより信頼の確保に努めます。
- (4) 私たちは、お客さま(組合員の方々)にとってよりよいサービスを提供するように、その時々にとりうる最大限の創意工夫をもって行動します。
- (5) 私たちは、常に注意深く、厳正な事務を行います。
- (6) 私たちは、公私混同をしません。

2. 利益相反行為等の禁止

- (1) 私たちは、組合の業務または職務上の地位を利用して、私的な利益をはかる行為をしません。
- (2) 私たちは、社会常識をふまえ、お客さま(組合員の方々)などとの健全な関係を保ちます。

3. 情報管理

- (1) 私たちは、お客さま(組合員の方々)に関する情報を厳正に管理します。
- (2) 私たちは、当組合内においても適切な情報管理に努めるとともに、他の役職員に対し、職務上必要な情報を、迅速かつ確に伝達し、組織としての効果的な業務遂行に努めます。

4. 職場規律

- (1) 私たちは、人種、国籍、信条、性別、年齢、出身地等に関係なく、すべての役職員一人ひとりを尊重し、働きやすい職場環境の確保に努めます。
- (2) 私たちは、服務や言葉づかい等基本的なマナーを守り、整理整頓を心がけ、秩序ある職場づくりに努めます。



CONTENTS

目次

組合の概況	1
◆ “けんしん” の事業方針等	1
◆ ごあいさつ	3
◆ 平成22年度事業の概況	4
◆ “けんしん” の概要	3
概要	3
組織	17
役員一覧	18
店舗一覧等	38
◆ “けんしん” の歩み	63
◆ 業務のご案内	21
主要な事業の内容	21
各種手数料	21
◆ “けんしん” の内部管理態勢	22
統合的リスク管理の態勢	22
法令等遵守の態勢	23

地域貢献 32

資料編 42



地域に貢献する“けんしん”の経営姿勢

●● ごあいさつ

このたびの東日本大震災により被害に遭われた皆さま方に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

さて、平素より、組合員をはじめ地域の皆さま方には“けんしん”に格別のご支援とご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

皆さま方に対し、地域に貢献する“けんしん”の経営姿勢をより深くご理解いただくために、平成22年度における事業内容と経営の基本方針等を取りまとめた「香川県信用組合の現況（ディスクロージャー誌）」を作成しましたので、ご高覧くださいますようお願い申し上げます。

私ども“けんしん”は、中小零細事業者や地域の皆さま一人ひとりのお顔が見えるきめ細かな取引を心がけ、常にお客さまの事業の発展や生活水準の向上に貢献するため、組合員の皆さまの利益を第一に考えることを活動の基本としております。

また、今後においても地域社会の一員として、当組合の経営資源を活用し、地域社会の生活の質や文化の向上に積極的に取組んでまいります。

この冊子をご高覧いただき、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年7月

理事長 国 東 照 正

●● “けんしん”の概要

(平成23年3月31日現在)

名 称	香川県信用組合
理 事 長	国 東 照 正
本 店 所 在 地	香川県高松市亀井町9番地10
創 立	昭和27年10月22日
出 資 金	20億1百万円
組 合 員 数	37,518人
自 己 資 本 比 率	7.81%
預 金 量	1,134億82百万円
融 資 量	652億52百万円
店 舗 数	18店舗
役 職 員 数	202人
営 業 区 域	香川県一円

平成22年度の業績について

事業概況

預金積金	貸出金
<p>預金積金残高は、個人預金は対前期末比12億45百万円の増加、法人預金は対前期末比3億60百万円増加し、平成23年3月末残高は1,134億82百万円（増加率1.43%）となりました。今後も経営情報の開示を積極的に行い、安心してお取引いただける金融機関経営を維持してまいります。</p>	<p>平成23年3月末残高は652億52百万円で、対前期末比26億21百万円の減少（減少率3.86%）となりました。県内景気は、依然低迷しておりますが、今後も中小規模事業者等向け融資を積極的に推進し組合員の皆さま、地域経済の発展に寄与してまいります。</p>
損益	組合員勘定
<p>景気回復感が乏しく、貸出金が伸び悩んだものの、有価証券関係収益の確保等により、152百万円の純利益を計上することができました。今後におきましても、協同組織金融機関の使命である中小企業金融の円滑化に積極的に取り組むとともにリスク管理の徹底を図り安定的な収益確保に努めてまいります。</p>	<p>地域の皆さまのご理解とご協力をいただき、平成23年3月末の組合員数は37,518人、出資金総額は20億1百万円となりました。これからも地域との共生を大切に考えながら、協同組織金融機関としての社会的使命と公共的役割を果たしてまいります。</p>

主な経営指標の推移

(単位：千円)

項	目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
利益	経常収益	2,954,136	2,993,348	3,186,901	3,103,336	3,208,284
	経常利益	132,558	△ 256,020	△ 121,430	154,525	129,909
	当期純利益	160,013	△ 380,559	160,852	145,402	152,382
残高	預金残高	110,084,128	110,831,701	110,876,700	111,878,791	113,482,958
	貸出金残高	63,525,884	66,183,253	68,719,250	67,873,663	65,252,109
	有価証券残高	17,167,995	16,028,661	15,622,221	18,726,328	21,688,773
	総資産	116,404,907	117,400,257	116,190,271	118,044,942	119,606,931
	純資産	4,786,199	3,800,427	3,498,407	4,228,374	4,294,845
職員数		176人	180人	193人	196人	196人
自己資本比率 (単体)		7.94%	6.27%	7.32%	7.60%	7.81%

(注) 1. 残高計数は、各年度期末日現在です。
2. 職員数は、臨時の雇用（パート職員）を除いております。

“けんしん” は
皆さまからの信頼を得るため、健全性の確保に努めています。

当期純利益

152百万円

の実績となりました。景気回復感が乏しい中、堅実経営に徹し計画利益を確保しました。

自己資本比率

7.81%

の実績となりました。国内基準である4%を上回っております。

開示債権

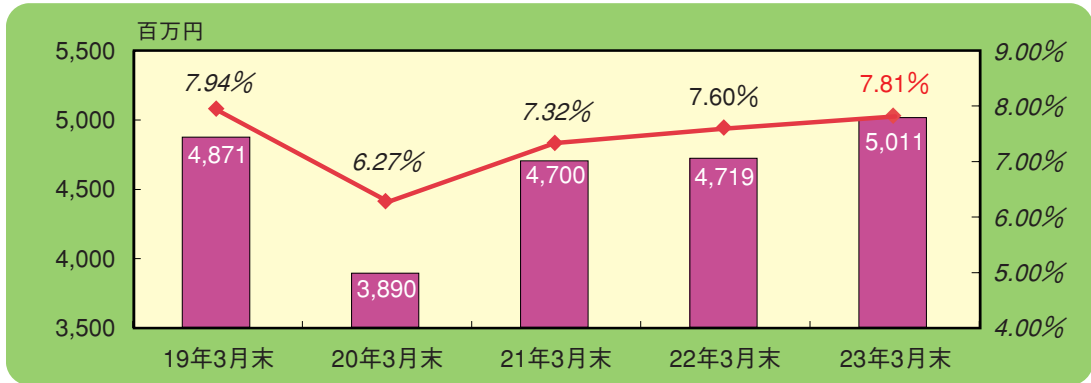
開示債権比率は
5.32%

となりました。景気が低迷する中、企業の経営支援に積極的に取り組んでおります。

平成22年度の現況

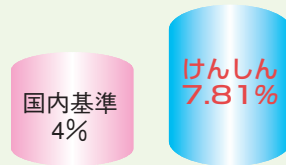
自己資本額・自己資本比率の推移

自己資本額は、平成22年3月末比で2億92百万円増加し、50億11百万円となりました。
また、自己資本比率は自己資本額の増加により、平成22年3月末比で0.21ポイント上昇し、7.81%となりました。



自己資本比率の見方

自己資本比率とは、金融機関の経営の健全性を示す重要な指標であり、貸出金や有価証券等のリスク資産（リスクアセット）に対して、出資金や内部留保並びに引当金等の自己資本の占める割合を表しております。この比率が高いほど、自己資本が豊富にあり、経営基盤がしっかりしているといえます。国内のみで営業を行なう金融機関に対しては国内基準である4%という基準が定められています。

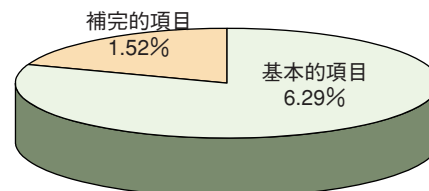


当組合の比率は7.81%と国内基準を上回っています。

●自己資本・自己資本比率等の詳細

(単位：百万円)

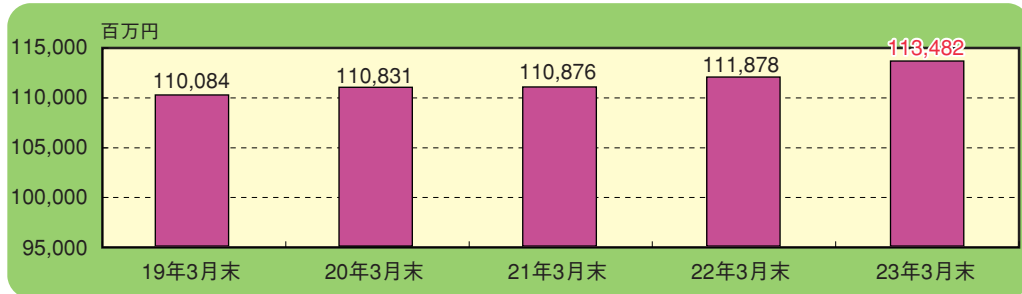
項目	平成23年3月末	項目	平成23年3月末
基本的項目 (A) (A)=(B)+(C)+(D)+(E)+(F)	4,040	リスク・アセット (L) (L)=(M)+(N)+(O)	64,151
出資金 (B)	2,001	資産 (M)	59,980
利益準備金 (C)	790	オフ・バランス (N)	135
諸積立金 (D)	857	オペレーショナル・リスク 相当額を8%で除した額 (O)	4,035
次期繰越金 (E)	391	T i e r 1 比率 (P) (P)=(A)÷(L)×100	6.29%
その他有価証券 の評価差損 (F)	—	自己資本比率 (Q) (Q)=(K)÷(L)×100	7.81%
補完的項目 (G) (G)=(H)+(I)+(J)	971		
一般貸倒引当金 (H)	446		
再評価額と再評価の帳簿 価額の差額の45% (I)	570		
補完的項目不算入額 (J)	△45		
自己資本額 (K) (K)=(A)+(G)	5,011		



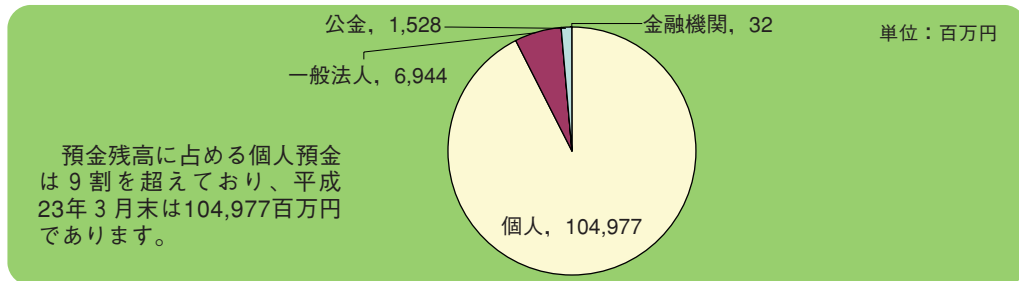
●● 預金・貸出金の残高推移状況

■ 預金の残高推移

地元に着目した営業活動を行ってまいりました結果、平成22年3月末比で16億4百万円の増加となりました。

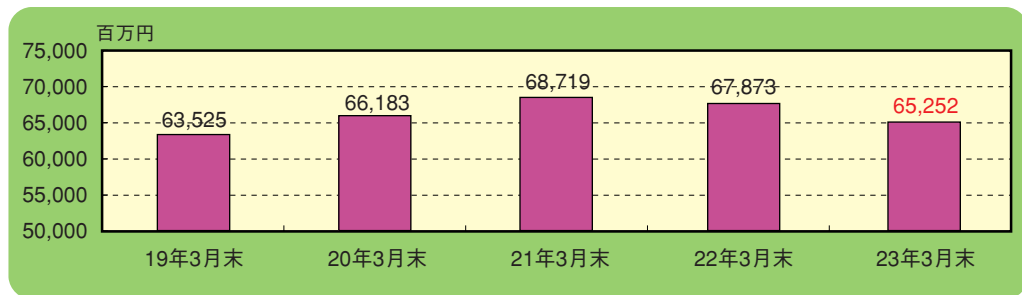


■ 預金者別預金残高

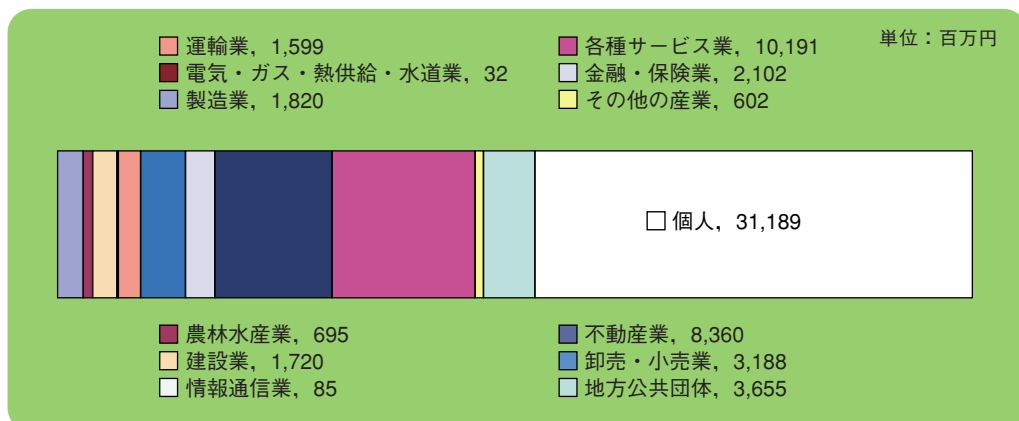


■ 貸出金の残高推移

県内景気が低迷している中、地元に着目した営業活動を行ってまいりましたが、平成22年3月末比で26億21百万円の減少となりました。



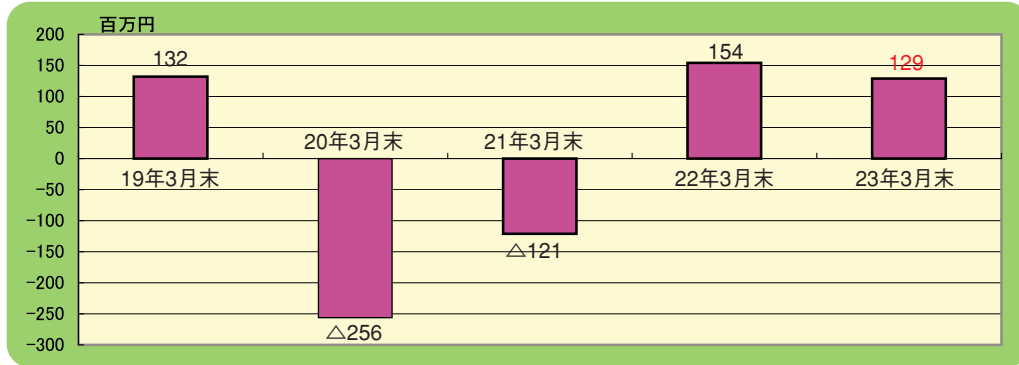
■ 貸出金業種別残高



各種利益の推移状況

■ 経常利益

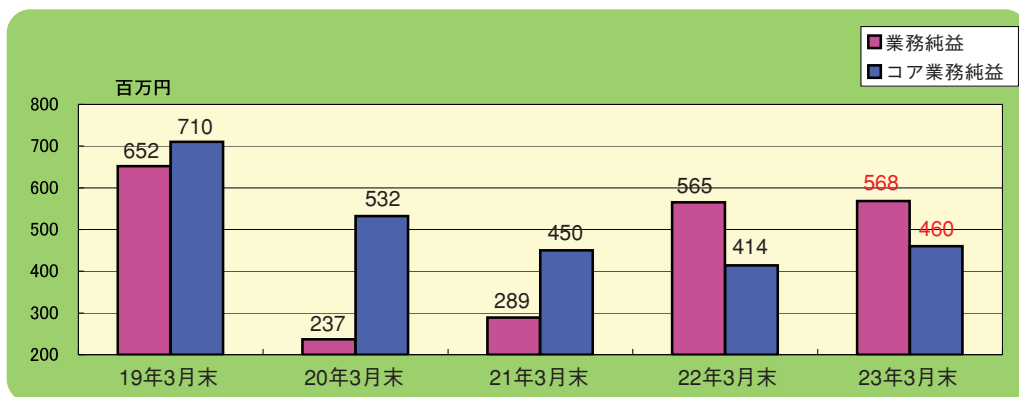
経常利益は、経常収益から経常費用を差し引いた利益で、毎年発生する通常の利益のことをいいます。



$$\text{経常利益} = \text{経常収益} - \text{経常費用}$$

■ 業務純益とコア業務純益の推移

業務純益は、金融機関本来の業務の収益力を示す指標で、一般企業の営業利益に該当します。この指標は貸倒発生の際の償却能力を判断する基準となります。

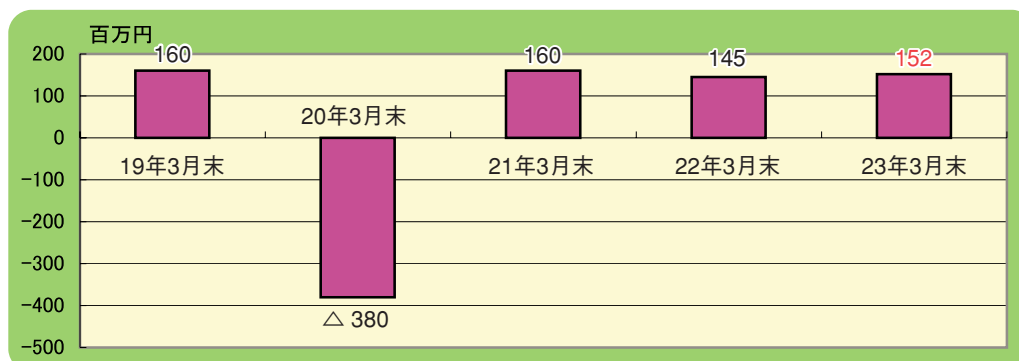


$$\text{業務純益} = \text{業務収益} - \text{業務費用} \text{ (一般貸倒引当金繰入額を含む)}$$

$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券の売却・償還に係る損益}$$

■ 当期純利益の推移

当期純利益は、経常利益にその年に特別に発生した利益（特別利益）、損失（特別損失）と税金を加減した利益のことをいいます



$$\text{当期純利益} = \text{経常利益} + \text{特別利益} - \text{特別損失} - \text{税金等}$$

金融再生法に基づく開示債権の状況

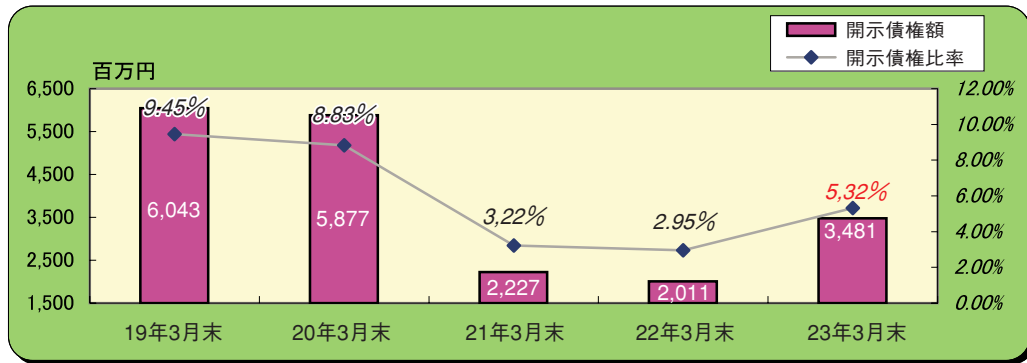
開示債権の発生防止と積極的な整理回収に努めましたが、平成22年3月末比で、開示債権額は14億70百万円増加し、開示債権比率は2.37ポイント上昇して5.32%となりました。

金融再生法開示債権及び同債権に対する保全状況

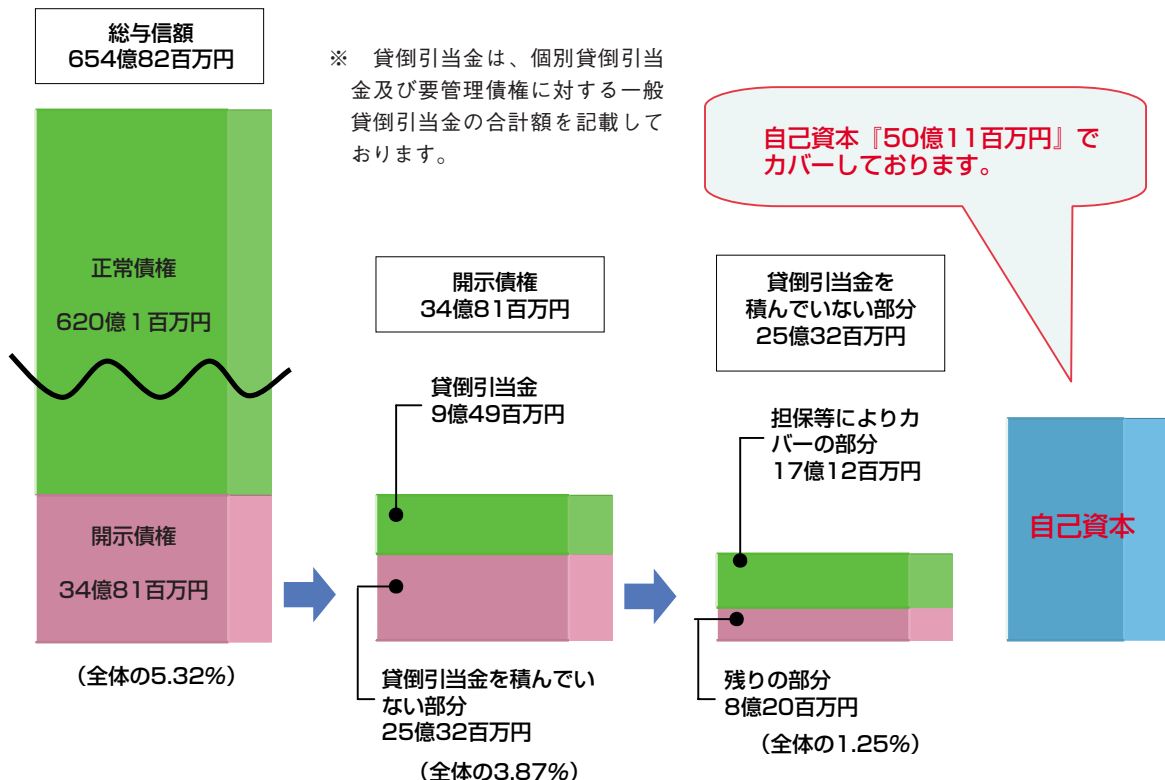
(単位：百万円)

区 分	開示債権額 A	担保・保証等 B	貸倒引当金 C	保全額 D=B+C	保全率 D/A
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	805	608	197	805	100.00%
危険債権	1,259	666	558	1,225	97.30%
要管理債権	1,417	437	194	631	44.53%
開示債権合計	3,481	1,712	949	2,661	76.44%
正常債権	62,001				
総与信額	65,482				

開示債権額・開示債権比率の推移



平成23年3月末の開示債権の状況



バーゼルⅡ（新しい自己資本比率規制）第3の柱に基づく開示

自己資本に関する事項

【自己資本調達手段の概要】

自己資本は、主に基本的項目（Tier1）と補完的項目（Tier2）で構成されています。平成22年度末の自己資本額のうち、当組合が積み立てているもの以外のものは、基本的項目では地域のお客さまからお預りしている出資金が該当いたします。

【自己資本の充実度に関する評価方法の概要】

自己資本の充実度に関しては、自己資本比率はもちろんのことTier1比率でも国内基準である4%を上回っており、経営の健全性・安全性を十分保っております。また、繰延税金資産については自己資本に占める割合も僅かであり、ほとんど依存しておりません。

一方、将来の自己資本充実策については、年度ごとに掲げる収支計画に基づいた業務推進を通じ、そこから得られる利益による自己資本の積上げを第一義的な施策として考えております。なお、収支計画については、貸出金計画に基づいた利息収入や市場環境を踏まえた運用収益など、当組合が置かれた環境を十分に踏まえたうえで策定しております。

● 自己資本の構成状況

(単位：百万円)

項 目	平成21年度	平成22年度
(自 己 資 本)		
出 資 金	2,036	2,001
非 累 積 的 永 久 優 先 出 資	—	—
資 本 準 備 金	—	—
そ の 他 資 本 準 備 金	—	—
利 益 準 備 金	770	790
特 別 積 立 金	857	857
次 期 繰 越 金	299	391
そ の 他 有 価 証 券 の 評 価 差 損	—	—
基 本 的 項 目 (A)	3,963	4,040
土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	570	570
一 般 貸 倒 引 当 金	186	446
補 完 的 項 目 不 算 入 額	—	△ 45
補 完 的 項 目 (B)	756	971
自 己 資 本 総 額 [(A) + (B)] = (C)	4,719	5,011

(リ ス ク ・ ア セ ッ ト)		
資 産 (オ ン ・ バ ラ ン ス) 項 目	57,784	59,980
オ フ ・ バ ラ ン ス 取 引 等 項 目	157	135
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	4,097	4,035
リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等 計 (D)	62,038	64,151
単 体 T i e r 1 比 率 (A) / (D)	6.38%	6.29%
単 体 自 己 資 本 比 率 (C) / (D)	7.60%	7.81%

- (注) 1. 「協同組合による金融事業に関する法律第6条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」（平成18年金融庁告示第22号。）に基づき算出しております。
2. 次期繰越金には、配当金等の外部流出額を含んでおりません。

【オペレーショナル・リスク管理の方針及び手続きの概要】

当組合では、オペレーショナル・リスクを「内部プロセス・人・システムが不適切であること、もしくは機能しないこと、または外部事象が生起することから当組合に生じるリスク」と認識しています。当組合は、オペレーショナルリスクについては事務リスク、システムリスク、法務リスク、風評リスクの各リスクを含む幅広いリスクと考え、管理体制や管理方法に関するリスクの基本方針をそれぞれのリスクに定め、確実にリスクを認識し評価しております。

リスクの計測に関しては、『基礎的手法』を採用することとし、体制を整備しております。

その他のリスクについては、苦情相談窓口の設置による苦情に対する適切な処理、個人情報及びセキュリティ体制の整備、さらには各種リスク商品等に対する説明態勢の整備など、顧客保護の観点を重要視した管理態勢の整備に努めております。

なお、これらリスクについては常勤理事会において協議・検討するとともに、必要に応じて理事会に報告する体制を整備しております。

● 自己資本の充実度の状況

(単位：百万円)

項 目	平成21年度		平成22年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
1. 信用リスク・アセット、所要自己資本の合計額	57,941	2,317	60,116	2,404
(1) 標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	57,941	2,317	60,116	2,404
① ソブリン向け	280	11	109	4
② 金融機関向け	7,537	301	7,968	318
③ 法人等向け	15,699	627	16,098	643
④ 中小企業・個人向け	11,810	472	11,164	446
⑤ 抵当権付住宅ローン	5,306	212	5,317	212
⑥ 不動産取得等事業向け	8,971	358	8,838	353
⑦ 3ヵ月以上延滞等	603	24	740	29
⑧ 出資等	2,267	90	4,337	173
⑨ 上記以外	5,465	218	5,541	221
(2) 証券化エクスポージャー	—	—	—	—
2. オペレーショナル・リスク	4,097	163	4,035	161
3. 単体総所要自己資本額 (1. + 2.)	62,038	2,481	64,151	2,566

(注) 1. 所要自己資本の額は、「リスク・アセット×4%」で求めております。

2. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、地方公共団体金融機構、わが国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門（当該国内においてソブリン扱いになっているもの）、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体、信用保証協会等のことです。

3. オペレーショナル・リスクは、当組合は「基礎的手法」を採用しております。なお、算定方法は下記のとおりです。

$$\frac{\text{粗利益 (直近3年間のうち正の値の合計額)} \{ (2,138\text{百万円} + 2,149\text{百万円} + 2,169\text{百万円}) \times 15\% = 968\text{百万円} \}}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数} \{3\text{年}\}} \div 8\%$$

4. 単体総所要自己資本額は、「単体自己資本比率の分母の額 (リスク・アセット) × 4%」であります



自己資本関係の用語の説明を行います。

用 語	解 説
リスク・アセット	リスクを有する資産（貸出金や有価証券など）に対し、リスクの大きさに応じた掛目を乗じ、再評価した資産の額です。
エクスポージャー	リスクに晒されている資産のことを指しており、具体的には貸出金などの与信取引と、有価証券などの投資資産が該当します。
抵当権付住宅ローン	バーゼルⅡ（新自己資本比率規制）において、住宅ローンの中で代表的なものとして、抵当権が第1順位かつ担保評価額が十分に満たされているものを指します。
不動産取得等事業者	不動産の取得又は運用を目的とした事業者のことです。
オペレーショナル・リスク	業務上において不適切な処理等で発生する事象により損失を受けるリスクのことです。具体的には不適切な事務処理により生じる事務リスク、システムリスク、風説の流布や誹謗中傷などにより企業イメージを毀損する風評リスク、裁判等により賠償責任を負うなどの法務リスク、その他人材の流出や事故などにより人材を逸失する人的リスクなどが含まれます。
Tier 1（基本的項目）	自己資本比率規制の中で使われる概念で、自己資本の中の基本的項目であり、出資金、資本剰余金、利益準備金などから構成されています。
Tier 2（補完的項目）	自己資本比率規制の中で使われる概念で、自己資本の中の補完的項目であり、一般貸倒引当金、土地再評価差額金の4.5%相当額などから構成されています。
Tier 1 比率	基本的項目の額÷リスク・アセットの総額で算出されます。

信用リスクに関する事項

【リスク管理の方針及び手続の概要】

信用リスクとは、取引先の財務状況の悪化などによる倒産等により、当組合の資産の価値が減少ないし消失という損失を受けるリスクをいいます。

当組合では、信用リスクを管理すべき最重要リスクであるとの認識のうえ、安全性、公共性、流動性、成長性、収益性の5原則に則った厳正な与信判断を行うべく、役職員に理解と遵守を促すことによって信用リスク管理を徹底しております。

信用リスクの評価は、小口多数取引の推進によるリスク分散のほか、与信ポートフォリオ管理として自己査定による債務者区分別、業種別、さらには与信集中によるリスクの抑制のため大口与信先の管理など、さまざまな角度から分析に注力しております。なお、一連の信用リスク管理の状況については、必要に応じて理事会、常勤理事会といった経営陣に対して報告する態勢を整備しております。

信用コストである個別貸倒引当金は、「自己査定基準」及び「償却・引当基準」に基づき、自己査定における債務者区分ごとに算定しております。一般貸倒引当金に当たる正常先、要注意先、要管理先については、債務者区分ごとの債権額にそれぞれの貸倒実績率を用いて算出しております。

なお、それぞれの結果については会計監査人や監事の監査を受けるなど、適正な計上に努めております。

● 信用リスクに関するエクスポージャー及び種類別の期末残高<業種別及び残存期間別>

(単位：百万円)

業種区分 期間区分	信用リスク		エクスポージャー期末残高				3か月以上延滞 エクスポージャー	
	21年度	22年度	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引		債券 株式・投資信託 その他		21年度	22年度
			21年度	22年度	21年度	22年度		
製造業	2,723	2,549	2,121	2,047	601	501	40	33
農業	776	751	776	751	—	—	—	—
林業	—	—	—	—	—	—	—	—
漁業	119	89	119	89	—	—	—	—
鉱業	—	7	—	7	—	—	—	—
建設業	3,139	3,028	3,139	3,028	—	—	173	221
電気・ガス・熱供給・水道	138	91	138	91	—	—	—	—
情報通信業	534	387	53	85	480	302	—	—
運輸業	2,029	2,308	1,926	1,813	102	494	—	—
卸売業、小売業	4,677	3,788	4,378	3,788	298	—	41	97
金融・保険業	35,439	39,282	1,618	2,115	33,820	37,166	—	—
不動産業	8,942	8,754	8,939	8,452	2	302	52	98
各種サービス	13,536	12,582	13,029	12,473	507	109	432	370
国・地方公共団体等	11,042	10,521	3,288	3,659	7,754	6,861	—	—
個人	27,734	26,379	27,734	26,379	—	—	296	399
その他	7,275	10,476	903	698	6,372	9,777	19	18
業種別合計	118,109	120,999	68,169	65,482	49,940	55,516	1,056	1,240
1年以下	21,314	13,003	4,232	637	17,081	12,365		
1年超3年以下	19,412	17,496	6,698	6,510	12,713	10,985		
3年超5年以下	10,916	16,785	8,396	7,305	2,519	9,480		
5年超7年以下	6,586	8,253	5,641	7,038	944	1,215		
7年超10年以下	13,354	13,810	6,112	5,697	7,241	8,113		
10年超	39,047	40,544	36,627	37,863	2,420	2,680		
期間の定めのないもの	7,478	11,105	460	429	7,018	10,675		
残存期間別合計	118,109	120,999	68,169	65,482	49,940	55,516		

(注) 1. 上記の「その他」は、裏付けとなる個々の資産の全部又は一部を把握することが困難な投資信託等及び業種区分に分類することが困難なエクスポージャーです。具体的には「投資信託・株式」「総合口座」「現金」「債権に準ずる仮払金」等が含まれます。

2. 当組合は、国内の限定されたエリア（香川県下）にて事業活動を行っているため、「地域別」の区分は省略しております。

● 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

項	目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	平成21年度	150	186	—	150	186
	平成22年度	186	446	—	186	446
個別貸倒引当金	平成21年度	791	663	393	397	663
	平成22年度	663	763	89	574	763
合計	平成21年度	941	849	393	548	849
	平成22年度	849	1,209	89	760	1,209

● 業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の残高等

(単位：百万円)

業種	個別貸倒引当金										貸出金償却	
	期首残高		当期増加額		当期減少額				期末残高			
					目的使用		その他					
	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度
製造業	—	0	0	0	—	—	—	0	0	0	20	—
農業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	20	21	21	70	5	0	14	20	21	70	3	15
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
情報通信業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
運輸業	—	—	—	10	—	—	—	—	—	10	—	—
卸売業、小売業	211	219	249	85	25	—	185	219	249	85	19	0
金融・保険業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産業	35	70	70	79	—	23	35	46	70	79	—	—
各種サービス	463	163	169	228	358	32	105	131	160	228	58	4
国・地方公共団体等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	33	161	125	257	2	32	30	129	125	257	24	3
その他	26	26	26	30	—	—	26	26	35	30	—	—
合計	791	663	663	763	393	89	397	574	663	763	127	24

(注) 1. 「貸出金償却」には、貸出金の償却のほかに貸出金に準ずる債権の償却額を含んでおります。

【リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関】

リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関は以下の4つの機関を採用しております。なお、エクスポージャーの種類ごとに適格格付機関の使い分けは行っておりません。

- ・ J C R
- ・ R & I
- ・ M O O D Y ' S
- ・ S & P

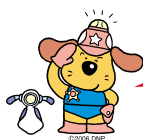
● リスク・ウェイト区分ごとのエクスポージャーの額等

(単位：百万円)

告示で定めるリスク・ウェイト区分	エクスポートの額			
	平成21年度		平成22年度	
	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し
0%	608	10,284	809	10,898
10%	—	3,638	—	2,590
20%	1,475	32,838	2,859	34,494
35%	—	15,171	—	15,224
50%	1,302	503	1,007	815
75%	—	19,056	—	16,305
100%	299	32,766	999	34,733
150%	—	163	—	260
350%	—	—	—	—
自己資本控除	—	—	—	—
合計	3,686	114,423	5,675	115,323

信用リスク削減手法に関する事項

当組合における信用リスク削減手法は「貸出金と当組合預金担保の相殺」のみであり、その場合は開示が求められていないため省略しております。



信用リスク関係の用語の説明を行います。

用語	解説
信用リスク	取引先の倒産や財務状況の悪化などにより、当組合が損失を受けるリスクのことをいいます。
リスク・ウェイト	債権の危険度を表す指標のことで、自己資本比率規制において総資産を算出する際に、保有資産ごとに分類して用いる率です。
適格格付機関	バーゼルⅡにおいて、金融機関がリスクを算出するに当たって、用いることができる格付を付与する格付機関のことで、金融庁では、適格性の基準に照らして適格と認められる格付機関を適格格付機関と定めています。
信用リスク削減手法	金融機関が抱えている信用リスクを軽減するための措置のことを言い、具体的には預金担保、有価証券担保、保証などが該当します。ただし、バーゼルⅡにおける信用リスク削減手法としては、告示に定める適格金融資産担保（現金、自組合預金、国債等）、同保証（国、地方公共団体等）、自組合預金と貸出金の相殺等をいいます。

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

【派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続きの概要】

当組合の市場リスクの適切な管理を行うことを目的に、派生商品取引を取扱っております。具体的な派生商品取引は外国為替関連取引、株式関連取引、クレジット・デリバティブがあります。

派生商品取引には市場の変動により損失を受ける可能性のある市場リスクや、取引相手方が支払不能になることにより損失を受ける可能性のある信用リスクが内包されております。市場リスクへの対応は、派生商品取引により受けるリスクと保有する資産・負債が受けるリスクが相殺されるような形で管理をしております。また、信用リスクへの対応として、お客さまとの取引については、総与信取引における保全枠との一体的な管理により与信判断を行うことでリスクを限定しており、適切な保全措置を講じております。そのため、当該取引に対する個別担保による保全や引当の算定は特段行っておりません。

その他、有価証券関連取引については、有価証券に係る投資方針の中で定めている投資枠内での取引に限定しておりますので、全く心配ありません。以上により当該取引に係る市場リスク及び信用リスク、双方とも適切なリスク管理に努めております。

加えて、組合全体のリスク許容限度内で配賦されたリスク資本による統合的リスク管理について、その態勢を整備し適切な管理に努めております。

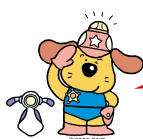
長期決済期間取引は該当ありません。

項 目	平成21年度	平成22年度
与信相当額の算出に用いる方式	カレント・エクスポージャー方式	カレント・エクスポージャー方式
グロス再構築コストの額	—	—

(単位：百万円)

項 目	担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額		担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	
	平成21年度	平成22年度	平成21年度	平成22年度
1. 派生商品取引合計	0	11	0	11
(1) 外国為替関連取引	0	11	0	11
(2) 金利関連取引	—	—	—	—
(3) 金関連取引	—	—	—	—
(4) 株式関連取引	—	0	—	0
(5) 貴金属（金を除く）関連取引	—	—	—	—
(6) その他コモディティ関連取引	—	—	—	—
(7) クレジット・デリバティブ	—	—	—	—
2. 長期決済期間取引	—	—	—	—
合 計	0	12	0	12

(注) 当組合では資金運用の一環として証券投資信託取引を行っており、その商品の中に派生商品取引が存在しております。



派生商品取引関係の用語の説明を行います。

用 語	解 説
市場リスク	金利・為替・株式などの相場が変動することにより金融商品の時価が変動し、損失を受けるリスクです。
派生商品取引	(＝デリバティブ取引) 有価証券や通貨、金といった金融資産(原資産)の取引から派生し、原資産の現物価格によってその価格が決定される商品を指します。具体例としては、先物、先渡し、スワップ、オプション等が挙げられます。
カレント・エクスポージャー	派生商品取引の取引先の倒産時における損失予想額を算出する方式です。契約時から現在までのマーケット変動等を考慮して、現在と同等のデリバティブ契約を再構築するのに必要なコスト金額と、そのコスト金額の将来変動見込額を合算したものを損失予想額としています。
クレジット・デリバティブ	債権や債券の信用リスクを、スワップやオプションの形にした金融商品のことで、もともと信用リスクをヘッジ(回避・低減)する目的で開発されたものであり、債務者である会社の信用力を指標にして将来に受け渡す損益を決めます。従来のデリバティブでは金融商品などの価格変動を対象にしていますが、クレジット・デリバティブは信用リスクを対象にしています。
コモディティ	品質、機能、形状、その他全ての属性が、標準化の進展、技術の発達、市場の発達、ライフサイクルの成熟化その他の理由によって安定的に均一化、共通化して、交換・代替が容易な普遍的価値として確立した商品のことで

出資等エクスポージャーに関する事項

【銀行勘定における出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続きの概要】

上場株式、上場優先出資証券、株式関連投資信託に係るリスクの認識については、時価評価及び最大予想損失額（VaR）によるリスク計測によって把握するとともに、当組合の抱える市場リスクの状況や設定された保有限度枠の遵守状況を、定期的に理事会等へ報告しております。

一方、非上場株式に関しては、当組合が定める内部規程等に基づいた適正な運用・管理を行っております。また、リスクの状況は、財務諸表や運用報告を基にした評価による定期的なモニタリングを実施するとともに、その状況については適宜理事会等へ報告を行うなど、適切なリスク管理に努めております。

なお、当該取引に係る会計基準は、当組合が定める「有価証券運用基準」及び日本公認会計士協会の「金融商品会計に関する実務指針」に従った適正な処理を行っております。

● 出資等エクスポージャーの貸借対照表計上額等

(単位：百万円)

項 目		売買目的有価証券		その他有価証券で時価のあるもの				
		貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価差額	取得原価 (償却原価)	貸借対照表計上額	評価差額	うち	
							うち益	うち損
上 場 株 式	21年度	—	—	493	285	△ 208	0	△ 208
	22年度	—	—	1,898	1,791	△ 107	9	△ 116
非 上 場 株 式 等	21年度	—	—	3,195	2,745	△ 450	—	△ 450
	22年度	—	—	3,548	3,006	△ 542	2	△ 545
合 計	21年度	—	—	3,688	3,030	△ 658	0	△ 658
	22年度	—	—	5,447	4,797	△ 649	12	△ 662

(注) 貸借対照表計上額は、期末日における市場価格等に基づいております。

● 子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額等

当組合に子会社及び関連会社はありません。

● 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

項 目		売 却 額	売却益		売却損	株式等償却
			売却益	売却損		
出資等エクスポージャー	平成21年度	2,368	107	—	—	
	平成22年度	6,907	177	277	0	

金利リスクに関する事項

【リスク管理の方針及び手続きの概要】

金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や将来の収益性に対する影響を指しますが、当組合においては双方ともに定期的な評価・計測を行い、適宜対応を講じる態勢としております。具体的には、一定の金利ショックを想定した場合の銀行勘定の金利リスク（BPV）の計測や、リスクの高い新商品等の導入による影響などをALM（資産負債総合管理）システムにより定期的に計測を行い、担当部署で協議検討をするとともに、必要に応じて理事会等へ報告を行うなど、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めております。このように、当組合では将来の金利変動に対するリスク管理を厳格に行っております。

【内部管理上使用した銀行勘定における金利リスクの算定手法の概要】

金利リスク算定の前提は「アウトライヤー基準」によるものとし、以下の定義に基づいて算定しております。

- ・計測手法：預金、貸出金、有価証券ともに「金利ラダー方式」
- ・コア預金：対象⇒流動性預金のうち、決済性預金を除く普通預金及び貯蓄預金
算定方法⇒算定現在残高の50%相当額
満期⇒5年以内（平均2.5年）
- ・金利感応資産、負債：預金、貸出金、有価証券、預け金
- ・金利ショック幅：99%タイル値
- ・リスク計測の頻度：月次

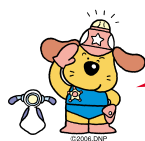
（単位：百万円）

運用勘定			調達勘定		
区分	金利リスク量		区分	金利リスク量	
	平成21年度	平成22年度		平成21年度	平成22年度
貸出金	1,428	1,387	要求払性預金	△176	△174
預け金	190	432	定期性預金	△728	△618
有価証券	532	539	その他	—	—
コールローン等	—	—			
その他	—	—			
運用勘定合計①	2,150	2,359	調達勘定計 ^(月)	△905	△793

銀行勘定の金利リスク (① + ②)	1,245	1,566
-----------------------	-------	-------

- (注) 1. 銀行勘定における金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち市場金利に影響を受けるもの（例えば、預金、貸出金、有価証券等）が、金利ショックにより発生するリスク量を見るものです。当組合では99%タイル値として銀行勘定の金利リスクを算出しております。
2. 要求払性預金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がないことから、預金者の要求によって随時払い出される預金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する預金を「コア預金」と定義し、当組合では普通預金等の額の50%相当額を平均2.5年としてリスク量を算定しています。
3. 銀行勘定の金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定します。

銀行勘定の金利リスク（1,566百万円）＝運用勘定の金利リスク量（2,359百万円）＋調達勘定の金利リスク量（△793百万円）



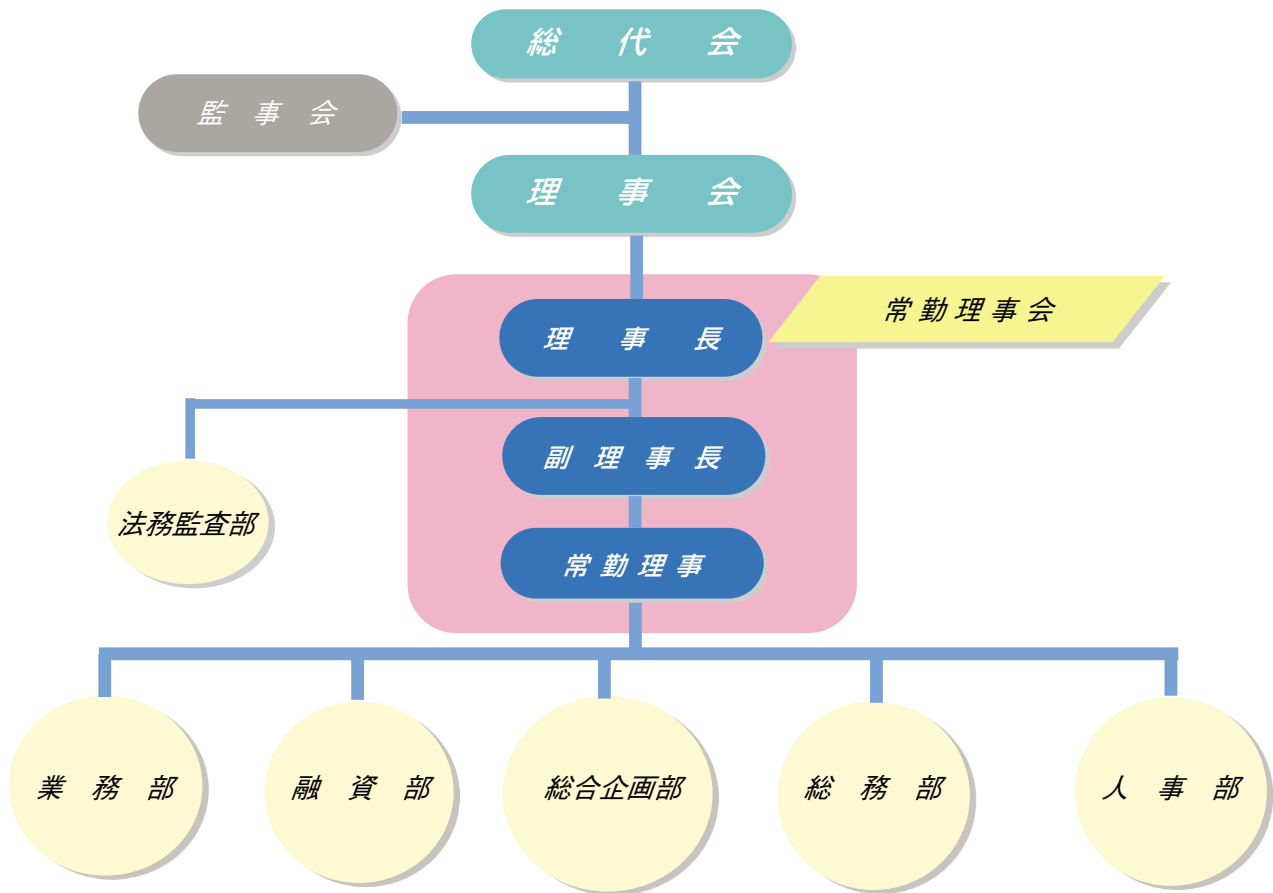
金利リスク関係の用語の説明を行います。

用語	解説
コア預金	明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される預金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する預金のことです。具体的には、①過去5年間の最低残高、②過去5年間の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高、③現残高の50%のうちいずれか最小の額を上限とし、満期は5年以内（2.5年）として金融機関が独自に定めます。
金利ショック	金利の変化（衝撃）のことで、上下200%ベース・ポイントの平行移動や、1%タイル値と99%タイル値といった算出方法があります。
パーセントタイル値	計測値を順番に並べたうちのパーセント目の値。99パーセントタイル値は99パーセント目の値です。
金利リスク	市場における一般的な金利水準の変動に伴って当該金融資産の価値が変動するリスクのことです。
アウトライヤー規制	銀行勘定における金利リスク量が自己資本（Tier1とTier2の合計額）に対して20%を超える経済価値の低下が生じる銀行をアウトライヤー銀行といい、当局の早期警戒制度の中でモニタリングを行うことです。
BPV	Basis Point Value（ベース・ポイント・バリュー）金利リスク指標の1つで、全ての期間の金利が1ベース・ポイント（0.01%）変化した場合における現在価値の変化額を表します。

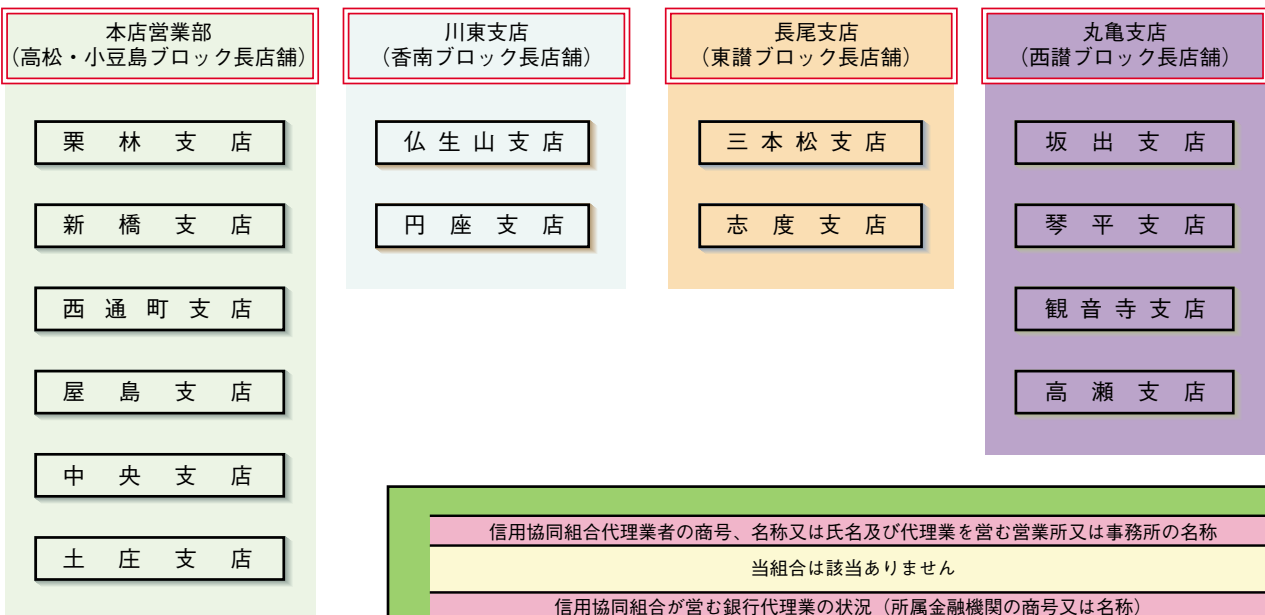
当組合の組織・監査の状況

組織図

(平成23年7月1日現在)



営業店



役員一覧

(平成23年7月1日現在)

● 理事長 (代表理事)	国 東 照 正	● 理 事 (非常勤)	大 熊 繁 美
● 副理事長 (代表理事)	武 田 司	● 理 事 (非常勤)	金 谷 嘉 博
● 常勤理事	宮 地 光 彦	● 理 事 (非常勤)	雑 賀 修 二
● 常勤理事	綾 敏 博		
● 常勤理事	川 畑 貢		
● 常勤理事	西 田 幸 雄	● 監 事 (非常勤)	小 野 坂 一 郎
● 常勤監事	石 田 敬 二	● 監 事 (非常勤、員外)	小 橋 照 彦

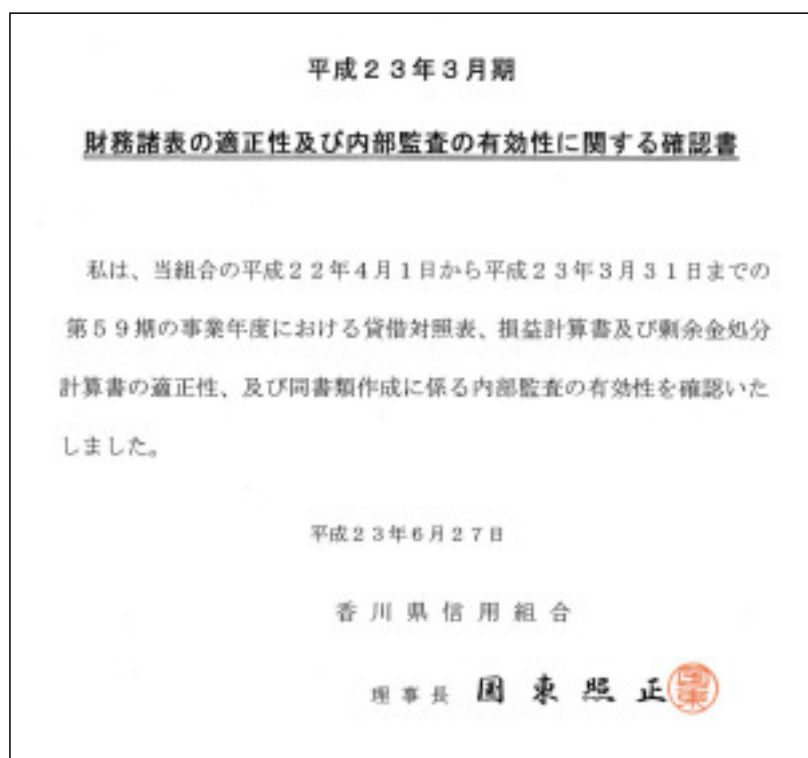
(注) 当組合は、職員出身者以外の理事3名の経営参画により、ガバナンスの向上や組合員の意見の多角的な反映に努めています。

法定監査の状況

当組合は、平成13年度から『新日本有限責任監査法人』と監査契約を締結し、「貸借対照表」「損益計算書」「剰余金処分計算書」等について会計監査を受けております。

また、当組合監事による監査もを受けております。

財務諸表の正確性について



平成17年10月7日付金融庁監督局からの要請により、平成18年3月期以降の決算期に係るディスクロージャー誌から、当組合代表理事が「直近の事業年度における財務諸表の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認している旨」を記載することが求められております。よって、当組合代表理事が上記全てのプロセスを確認したので、左記に署名・押印をいたしております。

総代・総代会の状況

総代及び総代会関連事項の情報開示

信用組合は、組合員の相互扶助の精神を基本理念に金融活動を通じて経済的地位の向上を図ることを目的とした協同組織の金融機関です。また、信用組合には、組合員の総意により組合の意思を決定する機関である「総会」が設けられており、組合員は出資口数に関係なく、一人一票の議決権および選挙権を持ち、総会を通じて信用組合の経営等に参加することができます。しかし、当組合は、組合員が大変多く、総会の開催が困難なため、中小企業等協同組合法および定款の定めるところにより「総代会」を設置しています。

総代会は、総会と同様に組合員一人ひとりの意思が信用組合の経営に反映されるよう、組合員の中から適正な手続きにより選挙された総代により運営され、組合員の総意を適正に反映し、充実した審議を確保しています。また、総代会は、当組合の最高意思決定機関であり、決算や事業活動等の報告が行われるとともに、剰余金処分、事業計画の承認、定款変更、理事・監事の選任など、当組合の重要事項に関する審議、決議が行われます。

総代は、組合員の代表として、総代会を通じて組合員の信用組合に対する意見や要望を信用組合経営に反映させる重要な役割を担っています。

定款（抜粋）

第4章 総会および総代会

第25条（総会の招集）

- この組合の通常総会は、毎事業年度終了後3ヵ月以内に招集する。
- 臨時総会は、必要があるときは何時でも招集することができる。

第26条（総会招集の手続）

理事（法令の定めにより組合員が総会を招集する場合にあっては、当該組合員）が総会を招集しようとするときは、会日の10日前までに、各組合員に、会議の目的である事項、日時及び場所その他法令で定める事項を記載した書面を発送しなければならない。

第27条（総会の議事）

- 総会は、組合員の半数以上が出席しなければ議事を開き議決することができない。この場合、第9条の規定により書面または代理人をもって議決権を行う者は、これを出席者とみなす。
- 総会の議事は、出席した組合員の議決権の過半数で決し、可否同数のときは、議長が決すところによる。
- 議長は、総会において総会に出席した組合員の中から組合員を選任する。
- 議長は、第2項の場合を除いて組合員として総会の議決に加わる権利を有しない。
- 総会においては、前条の規定によりあらかじめ通知した事項についてのみ議決することができる。ただし、次条に規定する事項を除いて緊急の必要があると総会が議決した事項については、この限りでない。
- 規約等の変更については、当該規約等の関係法令の改正（条項の移動等、当該法令に規定する内容の実質的な変更を伴わないものに限り。）に伴う規定の整理の場合には、総会の決議を要しない。なお、本稿による規約等の変更を行った場合には、その旨をこの組合の事務所の店頭に掲示し、周知しなければならない。
- 総会の議事録は、議長及び出席した理事が作成し、これに署名するものとする。
- 議事録には少なくとも次に掲げる事項を記載しなければならない。
 - 開会及び閉会の日時並びに場所
 - 組合員数及び出席者数（本人出席、代理人出席、書面出席別）
 - 議事の経過の要領並びに結果

第28条（特別議決）

次の事項は、組合員の半数以上が出席し、その議決権の3分の2以上の多数による議決を必要とする。

- 定款の変更
- 組合の解散または合併
- 組合員の除名
- 事業の全部の譲渡

第29条（総代会）

- この組合に、総会に代わるべき総代会を設ける。
- 総代会は、組合員のうちから選挙された総代でこれを組織する。
- 総代会は総会に代わり、総会の事項を行う。ただし、総代の選挙をすることができない。
- 総代会については、総会に関する規定を準用する。この場合、第9条第1項中『その組合員の親族もしくは使用人または他の組合員』とあるのは『他の組合員』と、同条第2項中『5人』とあるのは『2人』と読み替える。

第30条（総代）

- 総代は、総代選挙規程の定めるところにより、組合員のうちから公平に選挙する。
- 総代の定数は、100人以上110人以内とする。
- 総代の任期は、3年とする。
- 第24条第2項の規定は総代について準用する。

総代選挙規程（抜粋）

第1条（総代の定義）

この規程において総代とは、この規定に定める各地区に属する組合員のうち、その地区に属する組合員によって選出され、この組合の定款第29条による総代会を構成し、総会に代わり総会の事項（この組合の定款第29条第3項ただし書きの場合を除く。）を行うものとする。

第2条（総代の定数）

総代の定数は100人以上110人以内とし、各地区において選挙すべき総代の数は別表の定めによる。

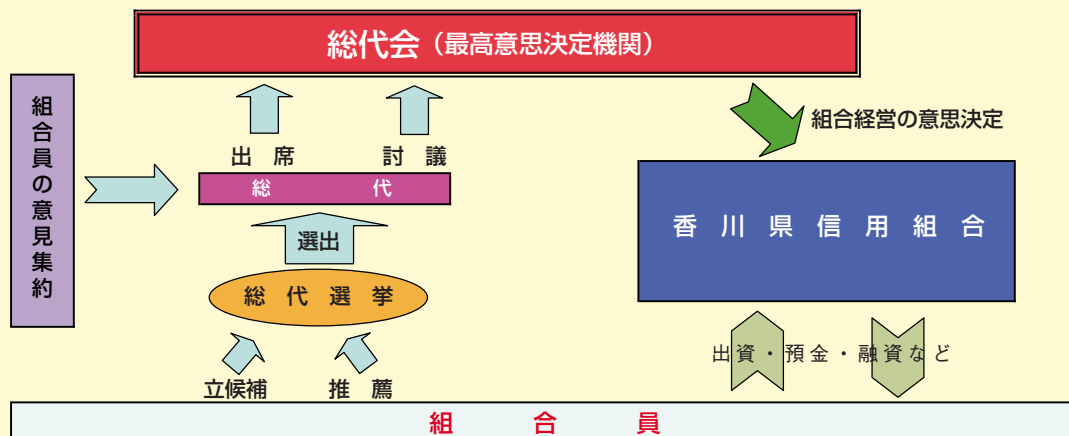
第9条（選挙の方法）

- 選挙は投票によって行なう。
- 投票は各地区につき、一人一票とし、地区定員の範囲内において連記制を取る。

《総代選挙規定 第2条 地区総代定数別表》

地区名	総代定数
高松地区	45以内
香南地区	15以内
東讃地区	15以内
西讃地区	25以内
小豆島地区	10以内
地区合計	110以内

総代・総代会の仕組み



第59回通常総代会

第59回通常総代会が、平成23年6月25日午前11時より、当組合本店で開催されました。当日は総代106名のうち、出席99名（うち、委任状による代理出席40名）のもと、全議案が可決・承認されました。



東日本大震災の犠牲者に黙祷を捧げました

【議 事】

報告事項 第59期（自 平成22年4月1日、至 平成23年3月31日）貸借対照表および損益計算書並びに事業報告の件

議決事項

- 第1号議案 第59期 剰余金処分案承認の件
- 第2号議案 第60期（自 平成23年4月1日、至 平成24年3月31日）事業計画案および収支予算案承認の件
- 第3号議案 役員退任に伴う理事補選および任期満了に伴う監事改選の件
- 第4号議案 退任役員に対する慰労金贈呈の件

総代・組合員との意見交換会等の開催

「中小・地域金融間向けの総合的な監督指針」の趣旨を踏まえ、組合員の皆さまの意見や要望等を経営改善や業務戦略につなげるため、平成22年11月12日に『講演会』及び『総代・組合員との意見交換会』を開催いたしました。当日は多くの総代、組合員の皆さまにご出席いただき、貴重な意見をいただくことができました。

- 【第1部】講演会 ◆テーマ：「日本経済・政治・市場の展望」デフレ克服への本気度
- ◆テーマ：「知ってナットク中小企業の資金調達に役立つ金融検査の知識」

【第2部】総代・組合員との意見交換会

総代の選挙区・定数・総代数

（平成23年7月1日現在）

地区	地区内の営業店	総代定数	総代数
高松地区	本店営業部、栗林支店、新橋支店、西通町支店、中央支店、屋島支店	45名以内	45名
香南地区	仏生山支店、円座支店、川東支店	15名以内	15名
東讃地区	長尾支店、三本松支店、志度支店	15名以内	15名
西讃地区	坂出支店、丸亀支店、琴平支店、観音寺支店、高瀬支店	25名以内	23名
小豆島地区	土庄支店	10名以内	8名

なお、総代氏名は、個人情報保護の観点から、掲載しておりません。

業務のご案内

主要な事業の内容

A 預金業務

(イ) 預金
当座預金、普通預金、決済用預金、貯蓄預金、通知預金、定期預金(スーパー定期・大口定期・期日指定定期)、定期積金、納税準備預金を取扱っております。
(ロ) 譲渡性預金
譲渡可能な定期預金を取扱っております。

B 貸出業務

(イ) 貸付
手形貸付、証書貸付及び当座貸越を取扱っております。
(ロ) 手形の割引
商業手形の割引を取扱っております。

C 商品有価証券売買業務

取扱っておりません。

D 有価証券投資業務

現金の支払準備及び資金運用のための国債、地方債、社債、株式、その他の証券に投資しております。

E 内国為替業務

振込及び代金取立等を取扱っております。

F 外国為替業務

全国信用協同組合連合会の取次業務として外国送金、その他外国為替に関する各種業務を取扱っております。

G サービス業務

自動受取サービス(各種年金、配当金等)
支払サービス(公共料金、クレジット代金、保険料等)
キャッシュカード、給与振込宝くじの販売(三本松支店)

H 社債受託及び登録業務

取扱っておりません。

I 金融先物取引等の受託等業務

取扱っておりません。

J 付随業務

(イ) 債務の保証業務
(ロ) 個人向け国債の募集の取扱業務
(ハ) 代理業
全国信用協同組合連合会
(二) 代理業務
(a) ㈱日本政策金融公庫、㈱商工組合中央金庫、独立行政法人住宅金融支援機構等の代理貸付業務
(b) 独立行政法人勤労者退職金共済機構等の代理店業務
(ホ) 地方公共団体の公金取扱業務
(ヘ) 株式払込金の受入代理業務
(ト) 長期火災保険の窓口販売業務
(チ) 401K(確定拠出年金)、自動車保険取次業務

手数料一覧

(平成23年7月1日現在)

振込手数料			組合員	非組合員	
窓口	当組合本店宛	自店宛	金額3万円未満 105円		
		他店宛	金額3万円以上 105円	315円	
	他行宛	電信扱	金額3万円未満 630円	840円	
		文書扱	金額3万円未満 420円		
			金額3万円以上 420円	630円	
			金額3万円以上 420円	630円	
A	当組合カード使用	当組合本店	金額3万円未満 無料		
		他行宛	金額3万円未満 315円	420円	
	T 現金扱	当組合本店	金額3万円未満 無料		
		他行宛	金額3万円未満 420円		
			金額3万円以上 630円		
			金額3万円以上 630円		
M 他行カード使用	当組合本店	金額3万円未満 105円			
	他行宛	金額3万円以上 210円			
		金額3万円未満 315円			
		金額3万円以上 420円			
インターネット・モバイルバンキング	当組合本店	金額3万円未満 無料		ご契約不可	
		金額3万円以上 無料			
	他行宛	金額3万円未満 315円	420円		

為替関係手数料			組合員	非組合員	
代金取立	高松手形交換所内	割引手形・担保商業手形	210円		
		上記以外の手形小切手等	至急扱 315円	525円	
	上記以外の交換所間	他行宛	至急扱 840円		
			普通扱 630円		
本店間	手形小切手等(割引手形除く)	無料			
その他	不渡り手形返却料	1件につき	630円		
	取立手形組戻料	1件につき			
	取立手形店頭呈示料	1件につき			
	送金・振込組戻料	1件につき			

預金関係手数料			組合員	非組合員
発行手数料	当座小切手帳	1冊(50枚)	840円	
	約束手形帳	1冊(25枚)	525円	
	為替手形帳	1冊(25枚)	525円	
	ICキャッシュカード(新規発行時及び更新時)		無料	
	ICローンカード(新規発行時及び更新時)		無料	
再発行	各種預金通帳		1,050円	
	C・D・ローンカード		1,050円	

ATM手数料		当組合カード	当組合以外
平日18時まで(土曜日14時まで)		無料	105円
平日18時以降(土曜日14時以降)		105円	210円
日曜日・祝日		105円	210円

(注) 貸越取引に係る取引金額が1万円以内の場合は105円を上限とし、1万円超の場合は210円を上限としますが、上限を超える取扱いは、カード発行金融機関にお確かめください。

その他業務関係手数料		組合員	非組合員
各種証明書発行手数料	残高証明書 1通	315円	
	融資証明書 1通	3,150円	
	利息支払証明書 1通	315円	
自己宛小切手発行手数料	1通	525円	
株式払込金保管手数料		3,150円	
国債口座管理手数料	1口座年間	無料	1,260円
出資証券再発行手数料	証券1枚	1,050円	
	1枚 ~ 100枚	無料	
	101枚 ~ 300枚	105円	
	301枚 ~ 500枚	210円	
	501枚 ~ 1,000枚	315円	
1,001枚 ~ 2,000枚	630円		
	以降1,000枚毎に	315円を加算	

融資関係手数料		組合員	非組合員
住宅ローン新規実行	担保評価内実行	52,500円	
	担保評価超実行	105,000円	
住宅ローン担保調査	担保調査手数料	52,500円	
金利選択型住宅ローン	再固定金利選択手数料	10,500円	
不動産担保調査手数料	新規設定極度増額	設定額1千万円未満	10,500円
		設定額5千万円未満	31,500円
	設定額5千万円以上	52,500円	
	追加・順位変更・債務者変更・担保譲渡・担保差替等 1登記	10,500円	
	根抵当権抹消(一部含む)	5,250円	
条件変更取扱手数料	証書貸付一部繰上返済	5,250円	
	証書貸付返済方法変更	5,250円	
	証書貸付全額繰上返済	5,250円	
	消費者ローン全額繰上返済	無料	

付随業務手数料		組合員	非組合員	
融資手数料	全国保証保証付住宅ローン	52,500円		
	住宅金融支援機構	一般住宅資金	46,200円	
		上記以外の住宅資金	34,650円	
条件変更手数料	住宅金融支援機構	償還方法等条件変更	5,250円	
		融資後3年以内	3,150円	
	全信組連代理貸付	全額繰上	3年超5年以内	2,100円
			5年超7年以内	1,050円
			7年超	無料
	一部繰上償還	3,150円		
	固定型から変動型へ移行	3,150円		
	その他の貸付条件の変更	3,150円		



《組合員の皆さまへ》

組合員の皆さまが、他金融機関のATM機で、当組合のキャッシュカードにより、預金の払い出しをされた場合の利用手数料については、一旦口座から引き落としをさせていただきますが、「月5回」までの手数料が翌月に口座へ返戻されるサービスを行っております。

“けんしん”の内部管理態勢

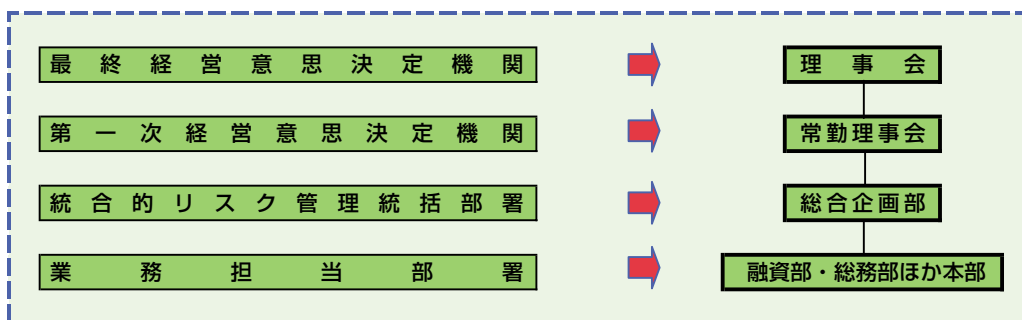
統合的リスク管理態勢（多様化・複雑化するリスクに備えて）

金融機関は、お客さまからお預りした資金を企業や個人の方に対して提供し、また流動性の確保のための有価証券投資を行う等により、資金を循環させるという基本機能を果たしています。しかしながら、貸付や有価証券投資には、融資したお金が戻ってこないという信用リスクや、投資した有価証券の価格が下がってしまうといった市場リスク等の諸リスクが伴っており、こうしたリスクを経営体力の範囲内に収める管理態勢の構築が、経営の健全性に対するお客さまの信頼につながるものと考えています。

■統合的リスク管理の基本方針

自己資本比率の算定に含まれないリスク（与信集中リスク、銀行勘定の金利リスク等）も含めて、それぞれのリスク・カテゴリーごと（信用リスク、流動性リスク、オペレーショナル・リスク等）に評価したリスクを総体的に捉え、当組合の経営体力（自己資本）と比較・対照することにより適切なリスクコントロールを行ってまいります。

■統合的リスク管理の組織態勢



■管理対象のリスク

各種リスク管理の状況		
信用リスク	信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により資産の価値が減少あるいは消滅し、当組合が損失を被るリスクのことであり、当組合では個別・グループ別・大口与信先別・特定業種別等にそれぞれ与信限度額を設定のうえ、与信集中リスクの是正に努めるとともに、リスクの計量化により与信ポートフォリオから発生する予想損失額を定期的に把握することで、過大なリスクテイクを回避し、資産の健全性の維持に努めております。	
市場リスク	市場リスクとは、金利、有価証券の価格、為替等のさまざまな市場のリスクファクターの変動により、組合が保有する資産（オフバランス資産を含む）の価値が変動し損失を被るリスクであり、当組合では、平成20年度に経験した世界的な金融危機を踏まえ、自己資本の範囲内でリスクの上限額を設定し、資産・負債全体の市場リスク量が上限額を超過しないよう、厳正なモニタリングを実施するなどリスク量の適切なコントロールに努めております。	
流動性リスク	流動性リスクとは、市場の混乱等により市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）及び予期せぬ資金の流失等により必要な資金が確保できなくなり資金繰りがつかなくなる場合や通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク（資金繰りリスク）のことであり、当組合では、日々の資金繰りや予期せぬ資金需要に対応できるよう、資金繰りに係るリスク管理指標とそのガイドラインを設定し、適正な流動性水準の維持・管理に努めております。	
オペレーショナルリスク	事務リスク	事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより当組合が損失を被るリスクのことであり、当組合では、正確かつ迅速な事務処理が信用の原点であるとの認識の下、コンプライアンスの徹底を図り、役職員の事務リスクに対する意識の高揚と事務の正確性の確保に努めるとともに、各業務担当部署が実施する臨店事務指導や事務ミス発生状況の実態把握を通じて、事務処理水準の向上や事務ミス防止の徹底に努めております。
	システムリスク	システムリスクとは、コンピュータシステムの障害または誤作動、システムの不備、不正利用等により当組合が損失を被るリスクのことであり、当組合は、信用組合共同センターに加盟していますが、コンピュータシステムの安全稼働を確保するため、セキュリティポリシーに基づいた各種対策を実施するとともに、障害が発生した場合の影響の極小化と早期復旧を図るため、情報資産に関する管理態勢の整備、セキュリティシステムの構築などその態勢整備に取組んでおります。
	その他リスク	その他リスクとは、オペレーショナルリスクのうち事務リスク及びシステムリスクを除いたリスクのことで、法務リスク・風評リスク・人的リスクなどをいいます。当組合ではコンプライアンス態勢の維持・改善を図りながら、これらのリスクを適切に管理しております。

危機管理態勢

当組合は、社会的責任と公共的使命を担っている金融機関として、危機管理を経営の最重要課題と位置づけ、非常事態発生の場合には、第一にお客さまと職員の生命を守ることとし、次いで業務態勢を確保することにより広くお客さまの期待に応えることを基本方針に定め、当組合に想定されるリスクのうち、特に業務の継続に関して多大な影響があり、且つ緊急の対応を要する危機が発生した場合は、速やかに弾力的、有効適切な対応が図れるよう、その態勢整備に取組んでおります。

法令等遵守（コンプライアンス）の態勢

基本方針

信用組合の社会的責任と公共的使命は、経営の自己責任原則に基づく健全経営に徹し、地域社会の中小企業や個人の皆さまに正確・迅速な質の高い金融サービスを提供し、地域社会の安定的な発展・繁栄に貢献することにあります。

“けんしん”では、その社会的責任と公共的使命を達成させるべく、役職員の指針として「基本方針」と「倫理規程」を制定しています。このコンプライアンス・マインドを醸成するため、コンプライアンス・プログラムに基づいて各種規程を作成し、研修・勉強会を開催してその浸透を図ることにより、社会規範に反することのないよう常に誠実かつ公正な業務運営を遂行しております。

次の表は信用組合の法令遵守項目の主要なものです。当組合は関係法令等を遵守し、法定基準をクリアした経営を行っております。

(平成23年3月31日現在)

項目	基準法令	基準	当組合の状況
自己資本比率	協金法	4%以上	7.81%
員外預金比率	中企法	20%以内	17.17%
員外貸出金比率	中企法	20%以内	7.52%
大口信用供与	協金法	単体＝単体自己資本額の25%	全て限度内
		合算＝単体自己資本額の40%	全て限度内

コンプライアンス態勢

当組合におけるコンプライアンスは、法務監査部が統括しており、コンプライアンスに関する事項の一元的な管理を行っております。また、各部店にはコンプライアンスを実践・浸透させるためにコンプライアンス担当者を配置し、コンプライアンスチェックリストによるコンプライアンス状況のチェックやコンプライアンス勉強会を実施するなど、コンプライアンスの浸透に努めております。

内部通報制度について

当組合では、内部通報受付・相談窓口を設置しております。また、内部通報者を保護するために『内部通報者保護規程』を制定し、自浄作用（不正行為の早期発見と是正）によってコンプライアンス態勢を強化しております。

取引等の適切性確保への取組み（優越的地位の濫用防止）について

お客さまとお取引の信頼性を確保するために、独占禁止法上の不公正取引となる『優越的地位の濫用』と誤認されないよう、また、『適合性の原則』に沿った適切な金融取引、金融商品等の販売に努めております。当組合からお勧めした金融商品等のご契約が、今後のご融資等に影響しないことを前提に、お客さまの意思でご契約いただけるよう、コンプライアンス態勢の維持・向上に努めています。

顧客保護等管理態勢への取組みについて

当組合では、法務監査部が顧客保護等管理に関して統括しており、管理態勢の強化を図っております。さらに、苦情・相談窓口を法務監査部に置き、お客さまからの苦情・相談の受付態勢を整備するとともに、事案の解決、苦情等の収集、内容の分析を通じて改善諸施策への反映などを実施できる態勢としております。

●● 本人確認に関するお願い

マネー・ローンダリング、テロ資金対策のための国際的な要請を受けて、当組合では、お客さまから口座の開設等を依頼された場合、「犯罪収益移転防止法」に基づき、下記の要領により本人確認を行っております。

■ 本人確認書類のご提示が必要な取引

○は本人確認書類のご提示が必要な取引です。■の欄は平成19年1月から本人確認が追加された取引であります。

取引内容	取引金額	取引金額		
		10万円以下	10万円超 200万円以下	200万円超
口座開設、保護預かりなどの取引開始		○	○	○
預金口座への現金入金		不 要	不 要	○
預金口座からの現金払出				
窓 口 振 込	現 金	不 要	○	○
A T M で の 振 込	現 金	不 要	取扱できません	取扱できません
	当組合カード	不 要	○	取扱できません
各 種 料 金 の 支 払	現 金	不 要	○	○
小 切 手 の 支 払	現 金	不 要	○	○
配 当 金 の 支 払	現 金	不 要	○	○
自己宛小切手の振出	現 金	不 要	○	○

(注) ○⇒カード口座の本人確認状況によってはお取扱できない場合がありますので、ご注意ください。

●● 金融商品に係る勧誘方針

当組合は、「金融商品の販売等に関する法律」に基づき、金融商品の販売等に際しては、次の事項を遵守し、勧誘の適正の確保を図ることとします。

1. 当組合は、お客さまの知識、経験、財産の状況及び当該金融商品の販売に係る契約を締結する目的に照らして、適正な情報の提供と商品説明をいたします。
2. 金融商品の選択・購入は、お客さまご自身の判断によってお決めいただきます。その際、当組合は、お客さまに適正な判断をしていただくために、当該金融商品の重要事項について説明を行い、十分理解していただくよう努めます。
3. 当組合は、誠実・公正な勧誘を心掛け、お客さまに対し不確実なことを断定的に申しあげたり、事実でない情報を提供するなど、お客さまの誤解を招くような勧誘は行いません。
4. 当組合は、良識を持った節度ある行動により、お客さまの信頼の確保に努め、お客さまにとって不都合な時間帯や迷惑な場所での勧誘は行いません。
5. 当組合は、役職員に対する社内研修を充実し、金融商品に関する知識の充実を図るとともに適切な勧誘が行われるよう、内部管理体制の強化に努めます。
6. 金融商品の販売等に係る勧誘についてご意見やお気づきの点等がございましたら、お近くの窓口までお問い合わせください。

●● 与信取引に関する説明態勢

お客さまとの親密な関係を長く維持することを目的とし、与信取引に関して法令に則り、お客さまの知識、経験及び財産の状況を踏まえた重要な事項の説明態勢及び苦情相談処理機能についての規程を制定しております。また、重要な事項の説明態勢に係るマニュアルを作成し、当該マニュアルに基づいて職場研修を実施し、全職員に対し説明責任の重要性と具体的な説明内容について徹底しております。

●● 個人情報保護宣言

香川県信用組合は、個人情報保護の重要性を鑑み、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）等の関係法令等を遵守してお客さまの情報を厳格に管理し、お客さまのご希望に沿って取扱うとともに、その正確性・機密保持に努めております。

●● 個人情報のお取扱いについて

香川県信用組合（以下「当組合」といいます。）は、当組合お取引のお客さまが安心して当組合をご利用いただけますよう「個人情報保護方針」を役職員一同が遵守するとともに、お客さまの個人情報につきましては、適切な取扱いとその保護に万全を期しております。

●● 個人データの安全管理措置に関する方針

香川県信用組合は、取扱う個人データの漏洩・滅失等の防止その他の個人データの安全管理のため、組織的安全管理措置、技術的安全管理措置を講じ、適正に管理しております。

また、役職員には必要な教育と監督を、業務委託先に対しては、個人データの安全管理が図れるよう必要かつ適切な監督に努めております。

●● 利益相反管理方針

香川県信用組合は、お客さまの利益を保護することを目的に、「利益相反管理方針」を定め、お客さまの正当な利益の確保及びその利便性の向上に努めております。

●● 反社会的勢力に対する基本方針

香川県信用組合（以下「当組合」といいます。）は、「反社会的勢力に対する基本方針」を定め、反社会的勢力に対して下記の事項を遵守し、当組合に対する信頼を維持し業務の適切性及び健全性の確保に努めております。

当組合は、社会の秩序や安全に脅威を与え、健全な経済・社会の発展を妨げる反社会的勢力との関係を遮断するため、以下のとおり基本方針を定め、これを遵守します。

1. 組織としての対応
当組合は、反社会的勢力による不当要求に対し、対応する職員の安全を確保しつつ組織全体として対応し、迅速な問題解決に努めます。
2. 外部専門機関との連携
当組合は、反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察、暴力追放運動推進センター、弁護士などの外部専門機関と緊密な連携を構築します。
3. 取引の未然防止を含めた一切の関係遮断
当組合は、信用組合の社会的責任を強く認識し、その責任を組織全体で果たすため、反社会的勢力との取引の未然防止を含めた一切の関係を遮断し、反社会的勢力からの不当な要求には応じません。
4. 有事における民事と刑事の法的対応
当組合は、反社会的勢力による不当要求に対しては、民事と刑事の両面から、法的対抗措置を講じる等、断固たる態度で対応します。
5. 資金提供、不適切・異例な取引および便宜供与の禁止
当組合は、いかなる理由があっても、反社会的勢力に対して事案を隠ぺいするための資金提供、不適切・異例な取引および便宜供与は行いません。

出資に関する取扱説明態勢

中小企業等協同組合法及び当組合定款に基づいて、組合加入や出資金に関して適正な説明が行えるように、「組合加入・出資金説明資料」を策定し、全職員に明確かつ具体的説明を行うことを徹底しております。

組合員について

■ 加入資格

以下の(1)～(4)に該当する方は、当組合の組合員になることができます。

- (1)当組合の営業地区内（香川県）にお住まいの方
- (2)当組合の営業地区内（香川県）においてお勤めの方
- (3)当組合の営業地区内（香川県）において事業を営んでいる方
常時使用する従業員の数が300人を超え、かつ資本金または出資の総額が3億円を超える事業者を除きます。なお、従業員数、資本金の額は業種によって異なります。
- (4)当組合の営業地区内において事業を行う事業所の役員の方

■ 加入手続

「出資金加入申込書」を当組合に提出してください。なお、組合員として加入承諾されるまで1週間ほどの期間を要することがあります。

①加入申込書の提出⇒②当組合の承諾⇒③出資金の払込み⇒④組合加入

● 相続により組合員となる場合

組合員の方がなくなった場合、3ヵ月以内に加入資格をもつ相続人が組合加入の申出をしたときは、相続開始のときに組合員になったものとみなされます(相続人が複数あるときは、他の相続人の同意書が必要になります)。その相続人は、被相続人の出資持分について、当組合に対する義務・権利を承継します。なお、3ヵ月以内に上記の手続が行われなかった場合には、法定脱退(後述)の扱いとなりますのでご注意ください。

■ 組合員の脱退

脱退には、以下の自由脱退と法定脱退の2種類があります。

- ① 自由脱退（組合員本人の都合で脱退する場合）
 - ・通常90日前までに脱退を予告（申請）すれば、事業年度末日において脱退することができます。
 - ・脱退予告後も、その事業年度末日になるまでは、組合員としての権利・義務を有します。
- ② 法定脱退（法定事由により、組合員本人の意思にかかわらず直ちに脱退となる場合）
 - ・組合員資格の喪失（地区外移転等）、死亡、破産（破産による解散を含む）などの法定事由が生じた場合は、直ちに法定脱退となり、その時点で組合員としての義務・権利（持分払戻請求権を除く）を喪失します。

●● 出資金について

■ 出資の払込

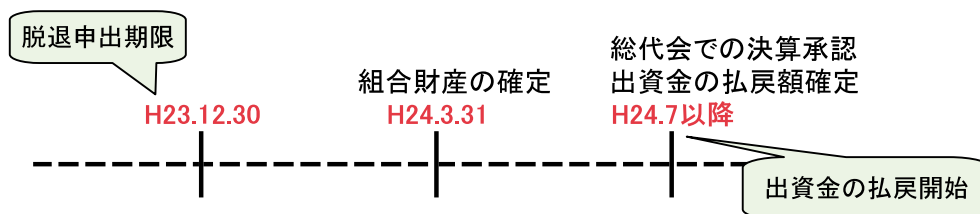
- ・ 組合員は1口以上の出資をしなければなりません。また、一組合員の出資口数は、当組合の出資総口数の10%までと制限されています。
- ・ 出資口数は、増やしたり減らしたりすることができます。ただし、出資口数を減らすことができるのは、事業を休止したり一部を廃止したとき、その他やむを得ない事由があると認められた場合に限りです。
- ・ 出資金を払い込むと、当組合の「出資証券」をお渡ししますので、大切に保管してください。万一紛失された場合などは、速やかに当組合にご連絡ください。
- ・ 「出資証券」は質入することはできません。
- ・ 出資金は、預金ではありません（預金保険の対象外）。

■ 出資金の譲渡

- ・ 出資金は当組合の承諾を得て、他の組合員または組合員資格をもつ方に譲渡することができます。

■ 出資金の払戻

- ・ 組合員は脱退または出資口数を減少させるにあたって、出資金の払戻請求をすることができます。
- ・ 払戻金の引渡は、申請の時期によっては、1年以上かかる場合があります。預金解約のような即時返金はできません。



- ※当組合に債務（借入金等）がある場合、その債務を完済するまでは、脱退した組合員に対し、出資金の払戻を停止することがあります。
- ※払戻金額は、当該事業年度末の当組合財産状況を基準として決定されることから、その財産状況によっては、出資した元本の払戻が受けられない可能性があり、損失が生じるおそれがあります。また、破綻時には、全く返金されない可能性があります。
- ※自由脱退・法定脱退による「出資口数の持分の払戻請求権」の時効は2年です。

■ 出資額に対する配当金

- ・ 当組合の年度決算の結果、剰余金が生じた場合に、総代会の承認を得て、出資額に応じた額の配当金が支払われます。
 - ・ 配当金が支払われるのは、その事業年度末現在での組合員に限られます。
 - ・ 配当金には、所得税法の定める所得税がかかります。
 - ・ その事業年度の途中で加入した組合員には、以降の加入期間に応じた割合の配当金が支払われます。
 - ・ その事業年度の途中で譲渡または法定脱退した組合員の出資については、配当金は支払われません。
- ※配当金の「支払請求権」の時効は10年です。

振り込め詐欺（恐喝）対策は万全ですか？

振り込め詐欺の種類

①オレオレ詐欺（恐喝）

犯人は様々な名目で振込みを要求してきます。また、不審に思われないようにするため、「風邪で声が出ない。」「携帯電話の番号が変わった。」などといった電話をあらかじめかけてくる場合もあります。

②架空請求詐欺（恐喝）

「自宅や勤務先に取り立てに行く。」「裁判になる。」「ブラック・リストに載る。」などと言って振込みを要求してきます。振込みのほかに「電信為替」、「現金書留」での送金を要求する手口も見られます。

③融資保証金詐欺

正規の貸金業者の名前を騙ったダイレクトメール等で勧誘し、保証金等の振込みを要求してきます。

④還付金等詐欺

税務署や社会保険事務所等を騙り、税金の還付金等に必要の手続を装ってATMを操作させて口座間送金により現金を騙し取る手口です。

振り込め詐欺対策のポイント

オレオレ詐欺（恐喝）対策

- すぐに振り込まない。一人で振り込まない。
- 相手より先に自分や家族の名前を言わない。
- 相手に名乗らせて、本人かどうかを確認する。
- 本人や家族に事実を確認する。
- 身近な人、最寄の交番・警察署、金融機関等に相談する。

架空請求詐欺（恐喝）対策

- 利用した覚えがなければ絶対に振り込まない。
- 自分から相手に連絡しない。
- 相手に自分の氏名、住所、電話番号を教えない。
- 見覚えのない送信元からのメールに表示されているアドレスにはアクセスしない。

融資保証金詐欺対策

- 融資を勧める電話やハガキに注意して、安易に応じない。
- ヤミ金業者等のうまい話に簡単に乗らない。
- 絶対に現金の振込はせず、相手に自ら電話をしない。

還付金等詐欺対策

- あらかじめATMによる1日あたりの利用限度額を引き下げておく。
- 税務署等が還付金の受取のためにATMの操作を求めることはないので、税務署等関係者に確認する。

キャッシュカード等に関連する犯罪対策



ご存知ですか？

“けんしん”の「偽造・盗難キャッシュカード等対策」

お客さま自身のキャッシュカード・通帳の厳重な管理も、偽造・盗難キャッシュカード・盗難通帳による被害対策として重要なポイントとなりますので、以下の点に十分ご注意ください。

- ①暗証番号は、他人から推測されにくい番号をご使用ください。
特に生年月日、電話番号、車のナンバー、自宅の番地等を使った暗証番号は、たとえ組み替えたとしても簡単に第三者に推測されてしまいます。キャッシュカードの不正利用における被害において最も多いケースです。
- ②偽造・盗難被害防止のために、通帳・キャッシュカードの管理には十分ご注意ください。
- ③絶対に車の中には放置せず、常に携帯してください。
- ④飲食店などで壁や椅子に掛けた上着やカバンから通帳やキャッシュカードを抜き取られないよう、ご注意ください。
- ⑤電車の中や駅のホーム、街中で、スリに通帳やキャッシュカードを抜き取られないよう、ご注意ください。
- ⑥お通帳やご利用の明細書は頻繁にチェックし、内容をご確認ください。



万一、通帳・キャッシュカードの偽造・盗難・悪用に気付いた場合には、最寄の当組合本支店までご連絡ください。
⇒ 本支店の連絡先は38ページをご覧ください。

★当組合休業日・営業時間外のご連絡先

047-498-0151

《信組情報サービス しんくみATMセンター》

は十分ですか？

当組合におけるセキュリティ対策

① 暗証番号の変更は、当組合のATMで簡単にお手続きできます。

キャッシュカードの暗証番号は、定期的に変更することをお勧めします。

こんな暗証番号が危ない！！

『生年月日』『電話番号』『車のナンバー』『自宅の番地』等
最近多発しているキャッシュカードの偽造・盗難などによる不正使用被害で、
最も多いのがこのケースです。

現在、「類推されやすい暗証番号」をお使いの場合には、
速やかに変更されるようお勧めします。

② 当組合のATMには「覗き見防止フィルター」を採用しています。

ATMの操作画面に「覗き見防止フィルター」を貼付し、操作内容が覗き見されないよう、ガードしています。

③ お客さまごとに1日の取引限度額の設定が行なえます。

お客さまの口座ごとに「1日支払限度額」「1日振込限度額」を各々設定することができます。また、「他金融機関での取引禁止」「口座開設店舗以外での取引禁止」の設定も可能ですので、詳しくは最寄の当組合本支店へお問い合わせください。

④ ICキャッシュカードの導入

磁気ストライプカードに比べて偽造が困難なICカードを発行しております。ICキャッシュカードへの変更は当組合本支店で承っておりますので、お問い合わせください。

⑤ 盗難・偽造キャッシュカード、盗難通帳等被害への補償について

当組合が定める規程に従い、被害に遭われたお客さまに対して補償を行なう制度を導入しております。もし被害に遭われたら、当組合本支店へお問い合わせください。

信用組合を2つの制度でバックアップ

信用組合の中央機関である『全国信用協同組合連合会』は、皆さまにご安心して信用組合とお取引いただけますように、2つの制度で信用組合をバックアップしております。

全国信用組合保障基金制度

信用組合業界では、合併等を行う信用組合に対して資金援助を行うなど、業界の信用保持を図ることを目的に、『保障基金』を設けており、全国信用協同組合連合会（以下「全信組連」といいます。）がその運営を行っています。

信用組合経営安定支援制度

全信組連は、今後も信用組合が経営の健全性を確保し、皆さまから信頼される金融機関であり続けるために、「モニタリング制度」「監査・指導制度」及び「資本増強支援制度」の3つの制度で構成される『信用組合経営安定支援制度』を運営しています。

I. モニタリング制度

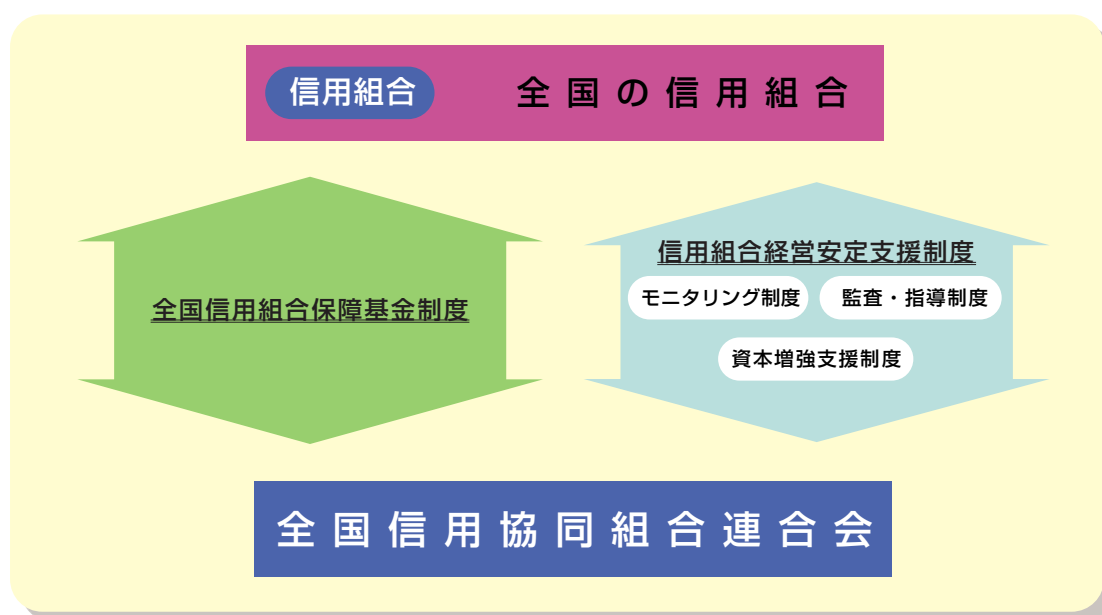
信用組合からの経営資料の提出を受け、経営内容を分析し経営上の問題点の有無等をチェックします。

II. 監査・指導制度

信用組合業界の経営指導・監査機関として「全国信用組合監査機構」を設け、必要に応じて信用組合への実地監査を行い、適切な助言・指導を行います。

III. 資本増強支援制度

必要に応じて信用組合への資本増強支援を行い、自己資本比率の向上を図ります。



【ひまわり／まんのう町】



地域貢献編 DATA

“けんしん”と地域社会	33
“けんしん”の地域経済への取組み	33
経営改善支援の取組状況	33
融資を通じた地域貢献	35
取引先への支援状況等	37
地域サービスの充実	38
文化的・社会貢献に関する活動	40
モニターアンケート調査結果の開示	41



【二十四の瞳映画村／小豆島】



地域社会
貢献

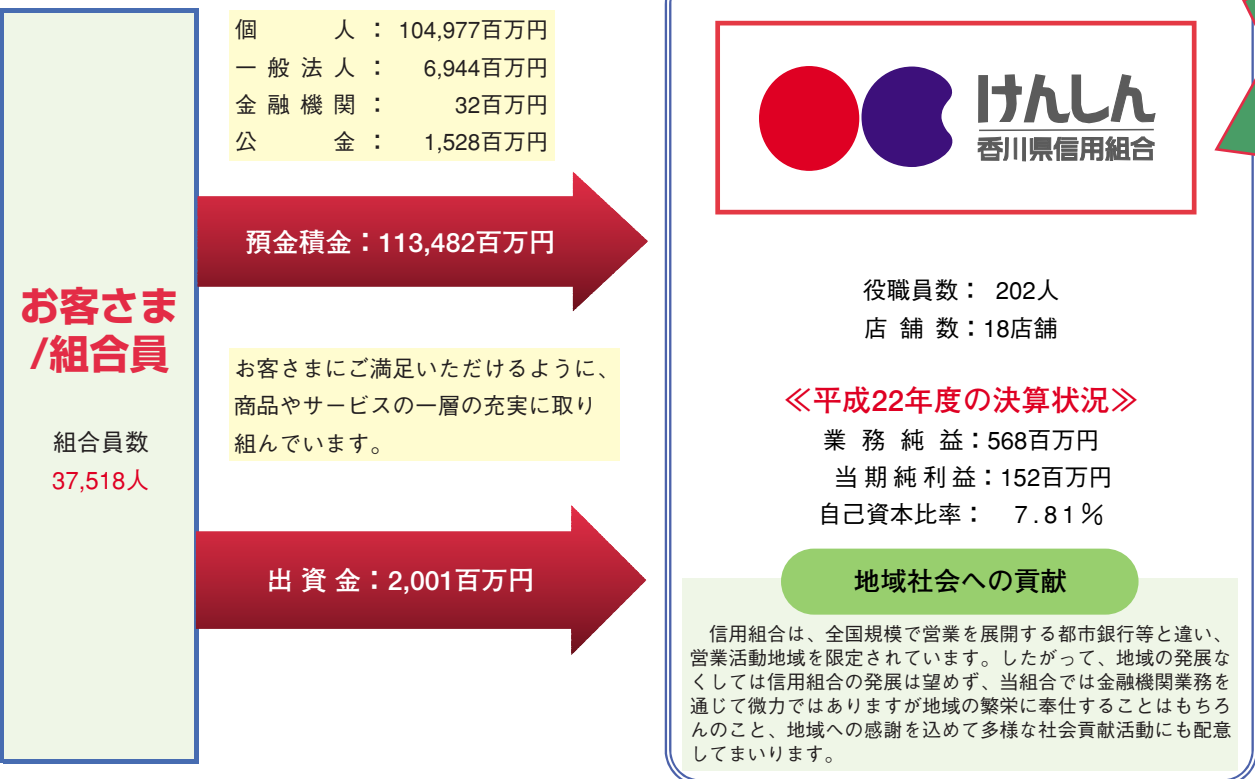
「中小・地域金融機関向けの総合的な監督を推進し、地域社会への貢献に取り組ん

Relationship

当組合の地域経済活性化への取り組みについて

当組合は、香川県一円を営業地区として、地元の中小企業者や勤労者の皆さまが組合員となつて、お互いに助け合い、お互いに発展していくことを共通の理念として運営されている相互扶助型の金融機関です。

地元の皆さまからお預りした大切な資金（預金積金）は、厳正かつ公正な審査に基づき、中小企業者や個人の皆さまへ積極的にご融資し、お取引先及び地域社会の健全な発展をお手伝いするとともに、地域社会の一員として地元の中小企業者や住民の皆さまとの強い絆とネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供に止まらず、地域文化発展といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでいます。



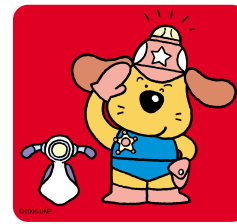
22年4月～23年3月における経営改善支援の取組実績

期初債務者数 (A)	うち経営改善支援取組先 (a)	aのうち期末に債務者区分がランクアップした先 (b)	aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先 (c)	aのうち再生計画を策定した先 (d)	経営改善支援取組率 (a) / (A)	ランクアップ率 (b) / (a)	再生計画策定率 (d) / (a)
602	75	4	62	22	12.4%	5.3%	29.3%

(注)・本表は正常先を除く計数です。

- ・(b)には、23年3月期の債務者区分が、期初よりランクアップした先数を記載しています。
- ・「aのうち再生計画を策定した先(d)」は、(a)のうち中小企業再生支援協議会の再生計画策定先、当組合独自の再生計画策定先等の合計先数です。
- ・期中に新たに取引を開始した取引先は本表に含みません。

指針」に基づく地域密着型金融 でいます。



貸出金以外の運用：50,446百万円

預け金や有価証券等で運用しています。預け金は主に全国信用協同組合連合会への定期性預け金としており、有価証券は安全性を第一として債券を中心に運用しています。

預金積金に占める有価証券等の割合：44.45%

貸出金：65,252百万円

すべての融資が円滑、厳正かつ公正に行われ、お客さま及び地域社会の健全な発展に資するよう心がけています。
預金積金に占める割合：57.49%

支援・サービス

お客さま /組合員

うち組合員
60,344百万円
うち組合員外
4,907百万円

法人等
30,406百万円

個人
31,189百万円

地方公共団体
3,655百万円

地域密着型金融への今後の取組

金融資本市場及び金融産業の活性化等のためのアクションプランの趣旨を踏まえて、中長期的な視点に立って、コンサルティング機能の発揮による企業の経営改善・事業拡大支援や地域の面的再生への積極的な参画等の取組を組織全体として継続的に推進し、中小・零細企業、新興企業等それぞれのニーズに応じた、多様で円滑な資金供給の実現を促進してまいります。

地域密着型金融の具体的内容

「地域密着型金融の取組についての評価と今後の対応について」を受けて、改訂された「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」において、『リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム』および『地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム』の成果等を踏まえ、今後、恒久的な枠組みの中で推進すべき地域密着型金融の具体的内容が以下のとおり明確に示されています。

- (1) ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化
- (2) 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に
適した資金供給手法の徹底
- (3) 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への
貢献

●第九次中期3ヵ年計画数値目標達成状況（22年4月～23年3月）

第九次中計 数値目標の 内容	第九次中計 数値目標	実績	評価
		24.3末 21年度～23年度中 目標	23.3末
自己資本比率	7.85%以上	7.81%	目標の達成に 向け引き続き 努力
中小規模事業者 等向け貸出比率	34.50%以上	29.40%	

(注) 中小規模事業者等向け貸出比率は総資産に対する割合です。

当組合が定める基本方針

“けんしん”は、地域における“地縁・人縁・顧客との信頼関係”を通じて得られる情報を活用して、地域内中小事業者・組合員の事業再生への支援及び円滑な資金供給並びに付加価値の高い金融サービスを提供することによって、お取引先の皆さまの利便性向上に努めます。そのため、リスク管理態勢の一層の強化やコンプライアンス態勢の促進など経営力強化に努め、地域や組合員から信頼される信用組合を目指します。

融資を通じた地域貢献

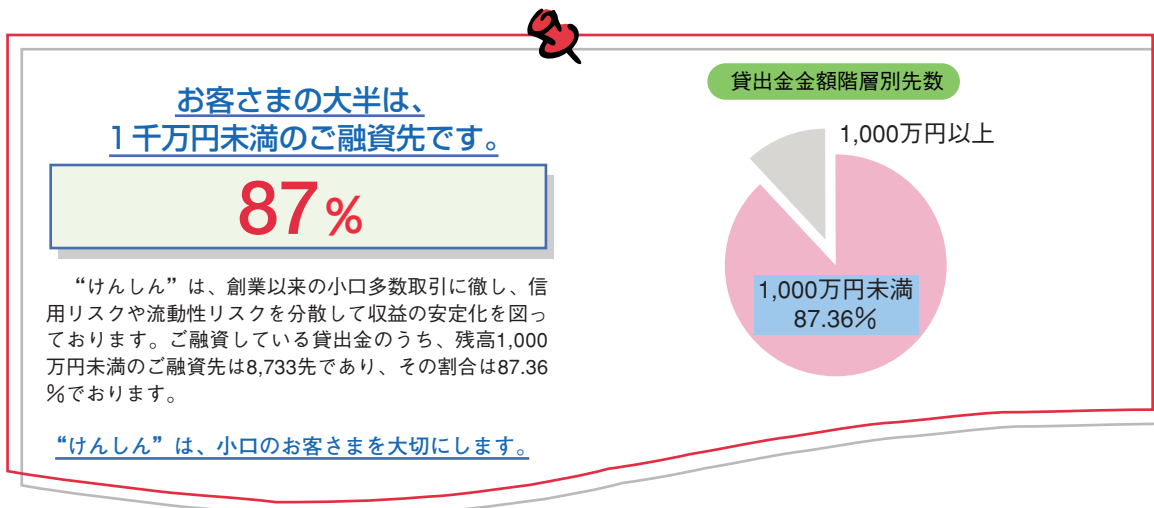
貸出先数・金額

(平成23年3月31日現在)

(単位：先、千円、%)

業種	先数	金額			構成比
		設備資金	運転資金	金額合計	
製造業	100	852,039	968,230	1,820,269	2.78
農業	41	646,711	22,778	669,489	1.02
林業	—	—	—	—	—
漁業	16	4,151	21,831	25,982	0.03
鉱業	1	7,932	—	7,932	0.01
建設業	179	438,765	1,281,315	1,720,080	2.63
電気・ガス・熱供給・水道業	16	11,758	20,392	32,150	0.04
情報通信業	1	—	85,000	85,000	0.13
運輸業	33	90,847	1,509,030	1,599,877	2.45
卸売・小売業	247	1,690,641	1,497,485	3,188,126	4.88
金融・保険業	9	—	2,102,581	2,102,581	3.22
不動産業	93	6,846,892	1,513,645	8,360,538	12.81
各種サービス	512	7,501,611	2,689,894	10,191,505	15.61
その他の産業	9	354,703	248,290	602,993	0.92
小計	1,257	18,446,053	11,960,475	30,406,528	46.59
地方公共団体	8	2,888,425	767,476	3,655,902	5.60
雇用・能力開発機構等	—	—	—	—	—
個人（個人事業主含む）	9,130	24,767,941	6,421,737	31,189,678	47.79
合計	10,395	46,102,420	19,149,688	65,252,109	100.00

(注) 個人向け住宅ローン及び消費者ローンの件数・金額については、58ページに記載しております。



地方自治体の制度融資の取扱状況

(平成23年3月31日現在)

当組合は、香川県や高松市の中小企業向け制度融資の取扱窓口指定されており、平成22年度は、**130件、521百万円**の取り組みを行いました。

なお、制度融資の名称、概要、融資条件等は以下のとおりです。

制度の名称	制度の概要	融資条件等
新規創業融資制度	県内で新たに事業を始めるための設備・運転資金	県内で新たに事業を開始しようとする者（開始して1年未満のものを含む）
経営活性化支援融資	経営の効率化、安定化のために必要な設備資金	県内で6ヵ月以上引続いて同一事業を営む中小企業者または組合
経営安定融資保証制度	経営の合理化と安定のための設備・運転資金	県内で6ヵ月以上引続いて同一事業を営む中小企業者または組合
経済変動対策融資	経営の改善、安定化を図るために必要な運転資金	県内で1年以上引続いて同一事業を営む中小企業者または組合で、売上が一定割合以上減少しており、経営の安定に支援が生じているもの
市町小口融資保証制度	設備資金または運転資金	県内で6ヵ月以上引続いて同一事業を営む小規模企業者であって、市町の定めるもの

当組合では、中小零細事業者や住民の皆さまの資金ニーズにお応えするため、次のようなローンの取扱いをしております。平成22年度は、**1,938件**、**12,743百万円**の取り組みを行いました。

事業者向けローン	内 容	融資条件等
一般のご融資	事業に必要な設備・運転資金等	必要に応じて融資条件等を付させていただきます。
けんしん ビジネスローン	<ul style="list-style-type: none"> ・固定金利型、証書貸付返済方式 ・原則として担保を要しない事業性資金（代表者1名の連帯保証のみ必要） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資限度額5,000万円まで（詳しくは窓口へお問い合わせください。） ・ご融資期間最長5年以内 ・お客様の財務内容によって、貸出金利を優遇させていただきます。（最低1.80%）
けんしん ビジネスサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・固定金利型、手形貸付及び証書貸付 ・原則として担保を要しない運転資金 ・連帯保証人 原則1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資限度額500万円まで（詳しくは窓口へお問い合わせください。） ・ご融資期間 手形貸付：最長2年以内 証書貸付：最長7年以内
個人向けローン	内 容	融資条件等
住宅ローン	ご自宅の購入、新築、増改築、修繕等に必要な資金をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高6,000万円まで ・ご融資期間最長35年以内 ・借入申込時の年齢が満20歳以上65歳未満
リフォームローン	ご自宅（店舗を除く）の改築・改装に必要な資金をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高500万円まで ・ご融資期間最長10年以内 ・借入申込時の年齢が満20歳以上65歳以下
マイカーローン (ニューマイカーローン)	自家用車購入、修理等（事業性資金は除く）に必要な資金をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高500万円まで ・ご融資期間最長8年以内 ・借入申込時の年齢が満18歳以上65歳以下
マイカーローン (オートライフローン)	自家用車購入、修理等（事業性資金は除く）に必要な資金をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高500万円まで ・ご融資期間最長7年以内 ・借入申込時の年齢が満20歳以上65歳以下
教育ローン (ニュースタディーローン)	入学金・授業料等、在学中に係る費用をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高500万円まで ・ご融資期間最長10年以内 ・借入申込時の年齢が満20歳以上65歳以下
教育ローン (極度型奨学ローンチャンス)	入学金・授業料等、在学中に係る費用をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資極度額最高500万円まで ・ご融資期間最長8年4ヵ月以内 ・借入申込時の年齢が満20歳以上で完済時年齢70歳以下
フリーローン (チョイス)	資金使途に関係なく（事業性資金・旧債返済金は除く）必要な資金をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高300万円まで ・ご融資期間最長7年以内 ・借入申込時の年齢が満20歳以上65歳以下
フリーローン (べんりくん)	資金使途に関係なく（事業性資金・旧債返済金は除く）必要な資金をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高300万円まで ・ご融資期間最長7年以内 ・借入申込時の年齢が満20歳以上75歳以下
目的ローン (シルバーライフローン)	健康で文化的な生活を営むために必要な資金をご融資するローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高100万円まで ・ご融資期間最長5年以内 ・借入申込時の年齢が満60歳以上70歳未満
カードローン	極度額を設定し、その範囲内で資金使途に関係なく当座貸越の方法で繰り返し利用できるローン	<ul style="list-style-type: none"> ・ご融資金額最高300万円まで ・借入申込時の年齢が満20歳以上65歳以下



取引先への支援状況等

「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」に基づく地域密着型金融の取組

重要議題	取組重点策	取組方針	22年度取組実績
ライフサイクルに応じた取引先企業の支援	①事業再生	当組合の事業再生支援委員会の機能強化、関係機関との連携強化により企業価値が保たれているうちの早期再生と持続可能性ある事業再構築に取組み、支援成功事例等を公表いたします。	平成22年度は9先を抽出して検討を行い9先に対して経営改善策の提案を行いました。
	②創業・新事業支援	融資能力のさらなる向上、ベンチャー企業向け業務に係る関係機関との連携を強化し、ベンチャー企業の育成並びに中小企業の技術及び新事業の展開を支援します。	平成22年度の創業・新事業支援融資実績は6先、22百万円となっております。
	③経営改善支援	取引先企業に対するコンサルティング機能、情報提供機能の強化、外部専門家の有効活用による相談機能強化を継続し、経営改善支援に積極的に関与します。	平成22年度の経営改善支援取組先数は75先となっております。
	④事業承継	情報ネットワークの活用及び法務・財務・税務等の外部専門家との連携を強化し、積極的に事業承継を支援します。	
中小企業に適した資金供給手法の徹底	①担保・保証に過度に依存しない融資の徹底	担保・保証に過度に依存することなく、定性情報を含めた地域での情報を活かし、取引先企業の事業価値を見極めて融資を行う態勢を強化します。	
	②中小企業に適した資金供給手法の徹底	財務諸表の精度が相対的に高い中小企業に対する融資の推進、スコアリングモデルを活用したけんしんビジネスローン及び新商品としてビジネスサポートローンを平成21年11月より取扱開始するなど、積極的推進を継続します。	平成22年度における「けんしんビジネスローン」の取扱いは14件、64百万円、「ビジネスサポートローン」の取扱いは7件、24百万円となっております。
地域経済への貢献	①地域の面的再生	地域の面的再生については、産学官とビジョンを共有し、「公民連携」へ積極的に参画します。	
	②地域活性化につながる多様なサービス提供	高齢者保有資産の有効活用、若い世代や高齢者への金融知識の普及、多重債務者問題解決の提案など金融サービスを積極的に提供します。	
	③地域への適正なコミットメント、公共部門の規律づけ	地方公共団体等との取引に係るコストやリスクを適切に把握し、計画的な融資推進態勢を構築します。	

地域サービスの充実

店舗・ATM等の設置状況

(平成23年3月31日現在)

店名	郵便番号	住所	電話番号	ATM設置数	休日稼働
本部	760-0050	高松市亀井町9-10	087-833-3312	—	—
本店営業部	760-0050	高松市亀井町9-10	087-833-3314	2台	⊕ ⊕ 祝
栗林支店	761-8061	高松市室町1907-6	087-866-6611	1台	—
新橋支店	760-0067	高松市松福町1丁目3-1	087-851-3866	1台	—
西通町支店	760-0020	高松市錦町2丁目6-10	087-851-9662	1台	—
屋島支店	761-0113	高松市屋島西町1968-13	087-841-4471	2台	⊕ ⊕ 祝
仏生山支店	761-8078	高松市仏生山町甲42-6	087-889-0315	1台	—
円座支店	761-8044	高松市円座町1057-3	087-885-2131	1台	—
川東支店	761-1706	高松市香川町川東上1732	087-879-3201	1台	—
長尾支店	769-2301	さぬき市長尾東868-6	0879-52-2122	1台	—
中央支店	760-0079	高松市松縄町36-1	087-866-3010	1台	—
三本松支店	769-2601	東かがわ市三本松1713-3	0879-25-2367	1台	—
坂出支店	762-0045	坂出市元町4丁目5-20	0877-46-0101	1台	—
丸亀支店	763-0024	丸亀市塩飽町7-2	0877-22-3391	1台	—
琴平支店	766-0003	仲多度郡琴平町五条726-3	0877-73-4411	1台	—
観音寺支店	768-0072	観音寺市栄町1丁目4-13	0875-25-1717	1台	—
高瀬支店	767-0011	三豊市高瀬町下勝間2357-4	0875-72-5539	1台	—
土庄支店	761-4121	小豆郡土庄町湊崎甲1447-10	0879-62-1353	2台	⊕ ⊕ 祝
志度支店	769-2101	さぬき市志度739-10	087-894-2605	1台	—

店舗設置のATM稼働時間帯は、平日8:45～18:00、土曜・日曜・祝日は9:00～17:00です。
(土曜・日曜・祝日に稼働しているATMは、本店営業部、屋島支店、土庄支店及び内海出張所です。)

店舗外ATMの設置状況

(平成23年3月31日現在)

設置場所	平日稼働時間帯	土曜稼働時間帯	日曜・祝日稼働時間帯	設置台数	休日稼働
内海出張所	9:00～18:00	9:00～17:00	9:00～17:00	1台	⊕ ⊕ 祝

店舗外共同ATMの設置状況

(平成23年3月31日現在)

設置場所	平日稼働時間帯	土曜稼働時間帯	日曜・祝日稼働時間帯	設置台数	休日稼働
香川県庁共同出張所	9:00～17:00	—	—	1台	—
高松天満屋共同出張所	10:00～19:30	10:00～17:00	10:00～17:00	1台	⊕ ⊕ 祝
さぬき市長尾支所共同出張所	9:00～17:00	—	—	1台	—

組合員へのATM利用手数料払戻しサービス

(平成23年3月31日現在)

組合員の皆さまが他金融機関のATM機で、当組合のキャッシュカードにより預金の払出しをされた場合の利用手数料については、一旦口座から引き落としをさせていただきますが、「月5回」までの手数料が翌月に口座へ返戻されるサービスを行っております。

顧客の組織化とその活動状況

当組合の『けんしん年金友の会』は、当組合で年金を受給している方の親睦を図るため平成11年に設立され、会員数は現在**5,794名**となっております。会員の方にお誕生日のプレゼント、温泉のご優待割引共通券の配布等を行っています。

《お誕生日のプレゼント》

会員の方のお誕生日にプレゼントを持参してお祝いさせていただいております。プレゼントの品は毎年10月1日から変更してお配りしております。

《温泉の優待割引共通券の配布》

県内温泉施設利用の際の共通割引券（平成22年度は県内20箇所）を配布しております。

苦情相談窓口の設置

当組合では、お客さまからのご意見、ご要望にお応えするため、各営業店に『コンプライアンス担当者』を配置するとともに、本店に苦情等相談窓口を設けております。

また、信用組合業界におきましても、『しんくみ相談所』を設置し、信用組合業務に関してお困りのことや当組合へのご意見、ご要望に対応しておりますので、ご遠慮なくお申しつけください。

当 組 合		信 用 組 合 業 界	
☆ 名 称	苦情相談窓口(本店：法務監査部) (各営業店は店舗案内参照)	☆ 名 称	(社) 全国信用組合中央協会 “しんくみ相談所”
☆ 電 話 番 号	087-833-3322	☆ 電 話 番 号	03-3567-2456
☆ E-mail	kenshin3@ninus.ocn.ne.jp	☆ 受 付 時 間	午前9時～午後5時 (土・日・祝日及び協会の休業日を除く)
☆ 受 付 時 間	午前9時～午後5時 (土・日・祝日及び当組合の休業日を除く)		

苦情相談処理状況（平成22年度）

当組合では、苦情相談処理状況をディスクロージャー誌で公表するとともに、組合内で全役職員が苦情相談発生状況を分析し、情報を共有して再発防止に努めております。

	事務ミス	説明不足	対応の不手際	その他	合 計
預 金 関 係	4	1	5	0	10
融 資 関 係	0	2	3	2	7
そ の 他	0	2	0	0	2
合 計	4	5	8	2	19

★お客さまからのお申し出内容によって分類しております。

紛争解決窓口の設置

苦情等のお申出は当組合のほか、東京弁護士会、第一東京弁護士会、第二東京弁護士会が設置する仲裁センター等で紛争の解決を図ることも可能ですので、『当組合苦情相談窓口』または『しんくみ相談所』へお申出ください。

なお、お客さまが、直接、仲裁センター等へお申出することも可能です。

名 称	東京弁護士会 紛争解決センター	第一東京弁護士会 仲裁センター	第二東京弁護士会 仲裁センター
住 所	〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関1-1-3		
電 話	03-3581-0031	03-3595-8588	03-3581-2249
受 付 日 間	月～金（除：祝日、年末年始）		
	9:30～12:00 13:00～15:00	10:00～12:00 13:00～16:00	9:30～12:00 13:00～17:00

文化的・社会的貢献に関する活動

東日本大震災被災地に対する義援金活動

当組合は、東日本大震災により被害に遭われた皆さま方の復興を支援するため、平成23年3月14日から義援金振込の受付を開始し、振込手数料を無料としております。

また、3月22日から全店に義援金箱を設置し、組合員の皆さま方に協力を呼びかけるとともに、当組合から義援金を贈呈したほか、職員にも義援金を呼びかけ贈呈しました。

さらには、6月20日から「東日本大震災復興応援定期預金」を募集し、募集総額の0.025%相当額を寄付金として被災地に送ることとしております。



霧島連山新燃岳噴火被災地に対する義援金活動



当組合は、霧島連山新燃岳噴火被災地の復興支援のため、平成23年3月1日から「新燃岳義援金付定期預金」を募集し、四国信用組合協会を通じて被災地へ義援金を贈呈しました。

クリーンロード運動

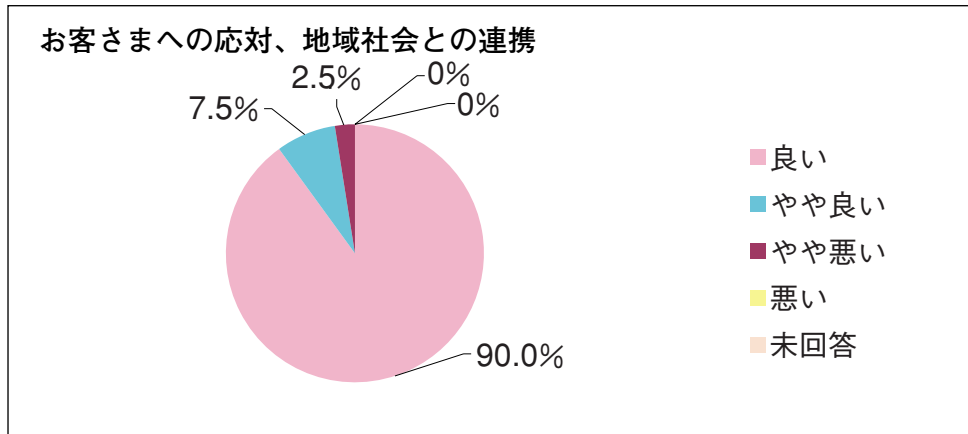
けんしん創立40周年を機に、毎月第3火曜日をクリーンロードの日として全役職員が各店舗の周辺を中心に、街の清掃奉仕運動を行っております。



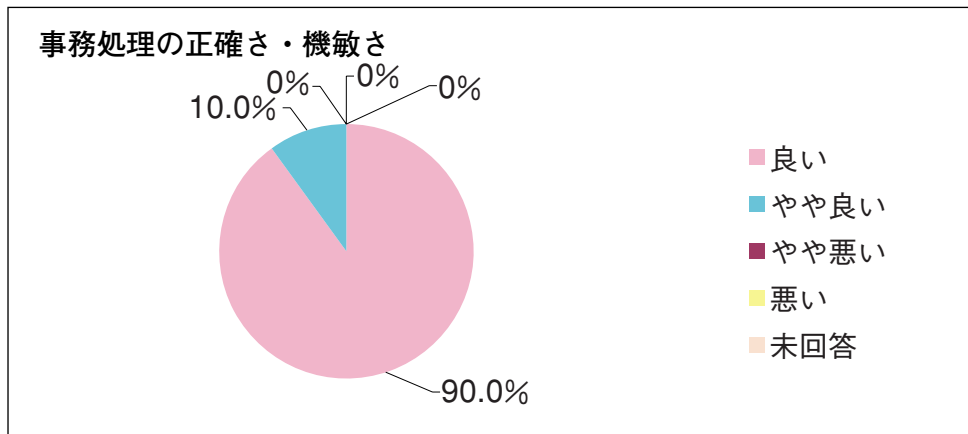
平成22年12月において、組合員モニター40名を対象として、第3回目となる『組合員モニターアンケート調査』を実施いたしました。モニターさまからのアンケート調査を通じ、ご意見・ご要望等について広くお伺いして、その結果を今後の組合経営に活かし、より一層皆さまにご満足いただくことにより、頼りにされる“けんしん”づくりを目指しております。

本アンケート調査の結果（一部）を下記に開示するとともに、ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

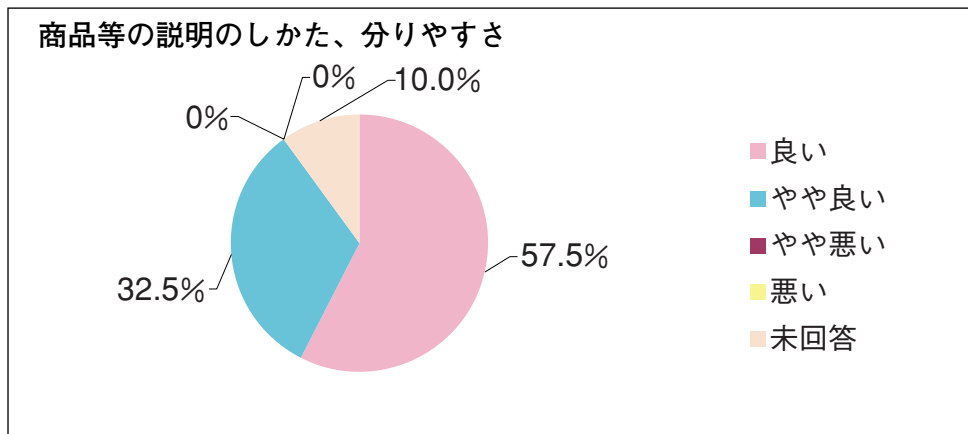
【支店長の対応】



【窓口の対応】



【得意先係の対応】



【栗林公園／高松市】



資料編 DATA

経理・経営内容	43
主要な業務に関する指標	53
開示債権の状況	55
預金に関する指標	56
融資に関する指標	57
その他業務に関する指標	59
歩み（沿革）.....	63
金融円滑化法に基づく対応について	65



【琴弾公園／観音寺市】

財務諸表

●貸借対照表

(単位：千円)

預け金
他の金融機関に預けている預金です。

貸出金
組合員の方々にお使いいただいている資金です。

未決済為替貸
振込などの内国為替取引において、為替通知を受信してから銀行間の資金決済が行われるまでの間に時間差があり、その間その資金を一時的に立替えを行う勘定です。

繰延税金資産
税効果会計の適用により、将来回収が見込まれる税金の金額です。

債務保証見返
お客さまのご融資等を保証した場合、そのお客さまに対する求償権の金額です。

貸倒引当金
将来発生が予想される貸倒損失をあらかじめ積立てた金額です。つまり、貸出金が戻ってこない場合の備えとなるものです。

資 産		平成20年度 (第57期)	平成21年度 (第58期)	平成22年度 (第59期)
現 金		995,982	925,266	849,204
預 け 金		27,315,119	26,879,689	28,721,352
有 価 証 券		15,622,221	18,726,328	21,688,773
国 債		2,794,977	4,069,076	4,132,753
地 方 債		—	1,259,585	891,850
社 債		6,527,692	7,234,246	7,242,299
株 式		366,832	380,633	98,744
その他の有価証券		2,240,107	2,180,375	4,793,626
外 国 証 券		3,692,611	3,602,411	4,529,500
貸 出 金		68,719,250	67,873,663	65,252,109
割 引 手 形		146,724	172,800	89,538
手 形 貸 付		3,724,031	3,853,343	3,603,837
証 書 貸 付		62,839,181	62,001,483	59,860,219
当 座 貸 越		2,009,312	1,846,035	1,698,513
そ の 他 資 産		1,181,129	1,103,733	1,007,915
未 決 済 為 替 貸		2,362	2,679	2,401
全 信 組 連 出 資 金		454,700	454,700	454,700
前 払 費 用		1,227	1,125	743
未 収 収 益		398,733	403,275	339,716
そ の 他 の 資 産		324,105	241,953	210,354
有 形 固 定 資 産		3,020,799	3,193,481	3,153,368
建 物		343,405	491,379	460,472
土 地		2,607,502	2,607,502	2,593,561
その他の有形固定資産		69,891	94,599	99,334
無 形 固 定 資 産		10,045	8,382	6,719
ソ フ ト ウ ェ ア		3,451	1,966	481
その他の無形固定資産		6,593	6,415	6,237
繰 延 税 金 資 産		33,362	—	—
債 務 保 証 見 返		233,920	183,773	137,195
貸 倒 引 当 金		△ 941,560	△ 849,376	△ 1,209,707
(うち個別貸倒引当金)		(△ 791,082)	(△ 663,194)	(△ 763,152)
資 産 の 部 合 計		116,190,271	118,044,942	119,606,931

(単位：千円)

負債及び純資産	平成20年度 (第57期)	平成21年度 (第58期)	平成22年度 (第59期)
預 金 積 金	110,876,700	111,878,791	113,482,958
当 座 預 金	497,843	314,342	316,988
普 通 預 金	16,690,174	17,334,021	17,207,271
貯 蓄 預 金	68,635	72,671	71,597
通 知 預 金	129,019	260,775	177,762
別 段 預 金	525,690	750,820	576,872
納 税 準 備 預 金	15,543	16,377	10,948
定 期 預 金	84,646,316	85,200,556	87,646,142
定 期 積 金	8,303,476	7,929,224	7,475,376
借 用 金	—	—	—
そ の 他 負 債	595,549	741,111	707,508
未 決 済 為 替 借	10,085	8,989	11,375
未 払 費 用	477,394	511,262	522,588
給 付 補 て ん 備 金	10,366	14,289	16,637
未 払 法 人 税 等	8,971	6,166	6,166
前 受 収 益	38,689	38,538	35,884
払 戻 未 済 金	287	107,424	44,735
職 員 預 り 金	36,754	39,888	43,079
そ の 他 の 負 債	12,999	14,552	27,041
賞 与 引 当 金	87,706	91,851	74,716
役 員 賞 与 引 当 金	—	—	—
退 職 給 付 引 当 金	323,100	332,638	324,780
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	133,569	137,169	144,799
睡 眠 預 金 払 戻 損 失 引 当 金	12,356	11,952	11,103
繰 延 税 金 負 債	—	10,320	64
再 評 価 に 係 る 繰 延 税 金 負 債	428,960	428,960	428,960
債 務 保 証	233,920	183,773	137,195
負 債 の 部 合 計	112,691,863	113,816,568	115,312,086
(純 資 産 の 部)			
出 資 金	2,139,116	2,036,514	2,001,942
普 通 出 資 金	2,139,116	2,036,514	2,001,942
利 益 剰 余 金	1,854,286	1,969,554	2,079,313
利 益 準 備 金	730,000	750,000	770,000
そ の 他 利 益 剰 余 金	1,124,286	1,219,554	1,309,313
特 別 積 立 金	857,000	857,000	857,000
(経 営 基 盤 強 化 積 立 金)	(350,000)	(350,000)	(350,000)
当 期 未 処 分 剰 余 金	267,286	362,554	452,313
(当 期 純 利 益)	(160,852)	(145,402)	(152,382)
組 合 員 勘 定 計	3,993,402	4,006,068	4,081,255
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△ 1,302,938	△ 615,771	△ 624,486
土 地 再 評 価 差 額 金	807,942	838,077	838,077
純 資 産 の 部 合 計	3,498,407	4,228,374	4,294,845
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	116,190,271	118,044,942	119,606,931

預金積金
お客さまからお預りしている預金です。

未決済為替借
振込などの内国為替取引において、為替通知を発信してから銀行間の資金決済が行われるまでの間に時間差があり、その間その資金を一時的に預かっておく勘定です。

給付補てん備金
定期積金の各口座の払込状況に基づき、初回掛け込みから期末までに発生した給付補てん備金(利息相当分)の所要額を留保しているものです。

債務保証
お客さまに直接ご融資等を行う代わりに組合の保証により政府系金融機関等から融資を受けた場合、組合が債権者に対して負っている保証すべき金額です。

純資産の部
お客さまから出資いただいている出資金と、これまでに蓄えた利益との合計額です。一般の会社で言う資本に相当する部分です。

利益準備金
法律で積立が義務付けられている積立金のうち、利益剰余金から積み立てる積立金です。

当期末処分剰余金
総代会で剰余金の処分が決定するまでの間、「当期純利益」及び「前期繰越金」等を合算したものです。

その他有価証券評価差額金
所有する有価証券の簿価と時価との差額を表しています。

- (注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については、移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては事業年度末の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

なお、変動利付国債の時価については、昨今の市場環境を踏まえた検討の結果、市場価格を時価とみなせない状態にあると判断し、当事業年度末においては、合理的に算定された価額をもって貸借対照表計上額としております。これにより、市場価格をもって貸借対照表計上額とした場合に比べ、「有価証券」128百万円増加、「繰延税金負債」15百万円増加及び「その他有価証券評価差額金」112百万円増加しております。

変動利付国債にかかる経営者の合理的な見積りに基づく時価は、ディスカウント・キャッシュフロー法等により算定しており、国債の利回り及びスワップション・ボラティリティ等が主な価格決定変数であります。

3. デリバティブ取引は期末において発生しておりませんが、その評価は時価法により行います。
4. 土地の再評価に関する法律（平成10年法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産に計上しております。

再評価を行った年月日 平成10年10月30日

当該事業用土地の再評価前の帳簿価額 1,171百万円

当該事業用土地の再評価後の帳簿価額 2,438百万円

同法律第3条第3項に定める再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令（平成10年政令第119号）第2条第4号に基づいて、地価税の課税対象価格（財産評価基準路線価）により算出しております。

同法第10条に定める再評価を行った事業用土地の当期末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 1,719百万円

5. 有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15年～39年

その他 4年～10年

6. 無形固定資産（リース資産を除く）の減価償却は定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当組合内における利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しております。

7. 貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という）の債権については、下記直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき引当てしております。

全ての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業店（営業関連部署）の協力の下に融資部（資産査定部署）が資産査定を実施しており、その査定結果により上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は671百万円であります。

8. 賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

9. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、必要額を計上しております。なお、当組合は、複数事業主（信用組合等）により設立された企業年金制度（総合型厚生年金基金）を採用しております。当該企業年金制度に関する事項は次のとおりです。

- (1) 制度全体の積立状況に関する事項（平成22年3月31日現在）

年金資産の額 301,976百万円

年金財政計算上の給付債務の額 338,625百万円

差引額 △36,648百万円

- (2) 制度全体に占める当組合の掛金拠出割合（平成21年4月分～平成22年3月分）

0.93%

10. 役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

11. 睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、必要と認める額を計上しております。

12. 信用保証協会の責任共有制度による負担金の将来における支出に備えるため、将来の負担金支出見込額を一般貸倒引当金に計上しております。

13. 所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する事業年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じて会計処理によっております。

14. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

15. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額 133百万円

16. 有形固定資産の減価償却累計額 1,363百万円
17. 貸出金のうち、破綻先債権額は26百万円、延滞債権額は2,034百万円であります。
 なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
 また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金であります。
18. 貸出金のうち、3ヵ月以上延滞債権額は68百万円であります。
 なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸出金で、破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
19. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は1,348百万円であります。
 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。
20. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は3,477百万円であります。
 なお、17. から20. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
21. 貸借対照表に計上した有形固定資産のほか、端末機等についてリース契約により使用しています。
22. 手形割引により取得した商業手形の額面金額は、89百万円であります。
23. 担保に供している資産は、次のとおりであります。
- | | | |
|------------|-------|----------|
| 担保に供している資産 | 預 け 金 | 4,000百万円 |
| 担保資産に対する債務 | 借 用 金 | 一百万円 |
- 上記のほか、為替取引の担保として預け金1,000百万円を差し入れております。
24. 出資1口当たりの純資産額は2,145円33銭です。
25. 金融商品の状況に関する事項
- (1) 金融商品に対する取組方針
 当組合は、預金業務、融資業務及び市場運用業務などの金融業務を行っております。このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理（ALM）をしております。
- (2) 金融商品の内容及びそのリスク
 当組合が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客さまに対する貸出金です。また、有価証券は主に債券、投資信託及び株式であり、満期保有目的、その他の目的で保有しております。なお、売買目的では保有しておりません。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。
 一方、金融負債は主としてお客さまからの預金であり、流動性リスクに晒されております。
- (3) 金融商品に係るリスク管理体制
- ① 信用リスクの管理
 当組合は、信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など与信管理に関する体制を整備し運営しております。これらの与信管理は、各営業店のほか融資部により行われ、また、定期的に常勤理事会や理事会を開催し、審議・報告を行っております。さらに、与信管理の状況については、法務監査部がチェックしております。有価証券の発行体の信用リスクに関しては、総務部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。
- ② 市場リスクの管理
- (i) 金利リスクの管理
 当組合は、ALMによって金利の変動リスクを管理しております。ALMに関する規則及び要領において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、常勤理事会において決定されたALMに関する方針に基づき、理事会において実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っています。日常的には総合企画部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行い、月次ベースで常勤理事会に報告しております。
- (ii) 価格変動リスクの管理
 有価証券を含む市場運用商品の保有については、常勤理事会の方針に基づき、理事会の監督の下、資金運用基本規程に従い行っております。このうち、総務部では、市場運用商品の購入を行っており、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。総務部で保有している株式の多くは、その他の目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしています。これらの情報は総務部を通じ、理事会に定期的に報告されております。
- (iii) 市場リスクに係る定量的情報
 当組合では、保有する全ての有価証券の市場リスクをVaRにより月次で計測し、取得したリスク量がリスク限度額の範囲内となるよう管理しております。
 当組合のVaRは、証券会社提供のシステムを利用して分散共分散法（保有期間60営業日、信頼区間99%、観測期間5年）により算出しており、平成23年3月31日（当事業年度の決算日）現在における当組合の市場リスク量（損失額の推計値）は、全体で1,124百万円であります。ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。
- ③ 資金調達に係る流動性リスクの管理
 当組合は、ALMを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。
- (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。
 なお、金融商品のうち、貸出金、預け金及び預金については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を開示しております。

26. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 預け金	28,721	28,880	159
(2) 有価証券	21,688	21,194	△ 494
満期保有目的の債券	4,049	3,554	△ 494
その他有価証券	17,639	17,639	—
(3) 貸出金	65,252		
貸倒引当金	△ 1,202		
	64,049	66,498	2,449
金融資産計	114,459	116,566	2,106
(1) 預金積金	113,482	113,856	373
金融負債計	113,482	113,856	373

なお、貸出金、預け金及び預金積金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」を記載しております。また、貸倒引当金は、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(1) 金融商品の時価等の算定方法

金融資産

① 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、市場金利で割引くことで現在価値を算定し、当該現在価値を時価とみなしております。

② 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

変動金利付国債の時価については、昨今の市場環境を踏まえた検討の結果、市場価格を時価とみなせない状態にあると判断し、当事業年度末においては、合理的に算定された価額をもって貸借対照表計上額としております。これにより、市場価格をもって貸借対照表計上額とした場合に比べ、「有価証券」128百万円増加、「繰延税金負債」15百万円増加及び「その他有価証券評価差額金」112百万円増加しております。

変動利付国債にかかる経営者の合理的な見積もりに基づく時価は、ディスカウント・キャッシュフロー法等により算定しており、国債の利回り及びスワップション・ボラティリティ等が主な価格決定変数であります。なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記事項については27. から30. に記載しております。

③ 貸出金

貸出金は、以下の(i)、(ii)の合計額から、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除する方法により算定し、その算出結果を簡便な方法により算出した時価に代わる金額として記載しております。

(i) 6ヵ月以上延滞債権及び当座貸越等、将来キャッシュ・フローの見積もりが困難な債権については、その貸借対照表の貸出金勘定に計上している額(貸倒引当金控除前の額)。

(ii) (i)以外は、貸出金の種類ごとにキャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を市場金利(LIBOR、SWAP等)で割り引いた価額を時価とみなしております。

金融負債

① 預金積金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿簿価)を時価とみなしております。定期預金及び定期積金の時価は、一定の金額帯及び期間帯ごとに将来キャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を一種類の市場金利(LIBOR、SWAP等)で割り引いた価額を時価としてみなしております。

(2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

(単位：百万円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式	94
合 計	94

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。当事業年度において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

(3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1 年 以 内	1 年 超 5 年 以 内	5 年 超 1 0 年 以 内	1 0 年 超
預け金	14,721	14,000	—	—
有価証券				
満期保有目的の債券	600	1,750	—	1,699
その他有価証券のうち満期があるもの	313	4,284	8,300	1,000
貸出金	38,460	13,461	5,125	6,552
合 計	54,094	33,495	13,425	9,251

貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めないもの、期間の定めがないものは含めておりません。

(4) 預金積金の決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金積金	88,765	22,586	—	—
合計	88,765	22,586	—	—

27. 有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりであります。これらには、「国債」「地方債」「短期社債」「社債」「その他の証券」が含まれております。以下30.まで同様であります。

(1) 売買目的有価証券に区分した有価証券はありません。

(2) 満期保有目的の債券

【時価が貸借対照表計上額を超えるもの】

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額	う ち 益	う ち 損
国 債	—	—	—	—	—
地 方 債	—	—	—	—	—
短期社債	—	—	—	—	—
社 債	2,200	2,231	31	31	—
そ の 他	—	—	—	—	—
合 計	2,200	2,231	31	31	—

【時価が貸借対照表計上額を超えないもの】

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額	う ち 益	う ち 損
国 債	—	—	—	—	—
地 方 債	—	—	—	—	—
短期社債	—	—	—	—	—
社 債	150	149	△ 0	—	0
そ の 他	1,699	1,172	△ 526	—	526
合 計	1,849	1,322	△ 526	—	526
合 計	4,049	3,554	△ 495	31	526

なお、時価は当事業年度末における市場価格等に基づいております。また、「うち益」「うち損」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

(3) 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式はありません。

(4) その他有価証券

【貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの】

	貸借対照表 計上額	取得原価	差 額	う ち 益	う ち 損
株 式	1百万円	1百万円	0百万円	0百万円	—
債 券	4,779	4,702	77	77	—
国 債	2,654	2,599	54	54	—
地 方 債	—	—	—	—	—
短期社債	—	—	—	—	—
社 債	2,125	2,102	22	22	—
そ の 他	2,080	2,017	62	62	—
小 計	6,860	6,721	139	139	—

【貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの】

	貸借対照表 計上額	取得原価	差 額	う ち 益	う ち 損
株 式	2百万円	3百万円	△ 0百万円	—	0百万円
債 券	5,137	5,184	△ 46	—	46
国 債	1,478	1,488	△ 9	—	9
地 方 債	891	898	△ 6	—	6
短期社債	—	—	—	—	—
社 債	2,766	2,797	△ 30	—	30
そ の 他	5,543	6,216	△ 673	—	673
小 計	10,684	11,404	△ 720	—	720
合 計	17,545	18,126	△ 581	139	720

なお、貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。また、「うち益」「うち損」はそれぞれ「評価差額」の内訳であります。上記の評価差額△581百万円に繰延税金負債43百万円を加えた金額△624百万円を「その他有価証券評価差額金」として表示しております。

変動利付国債の時価については、昨今の市場環境を踏まえた検討の結果、市場価格を時価とみなせない状態にあると判断し、当事業年度末においては、合理的に算定された価額をもって貸借対照表計上額としております。これにより、市場価格をもって貸借対照表計上額とした場合に比べ、「有価証券」128百万円増加、「繰延税金負債」15百万円増加及び「その他有価証券評価差額金」112百万円増加しております。

代理業務

●代理貸付残高の内訳

(単位：千円)

区分	平成21年度	平成22年度
全国信用協同組合連合会	5,412	5,034
商工組合中央金庫	70,626	44,055
日本政策金融公庫	73,539	62,172
住宅金融支援機構	1,877,959	1,412,651
福祉医療機構	162,037	121,377
合計	2,189,574	1,645,291

出資金

●組合員数・出資金の推移

(単位：千円、人、口)

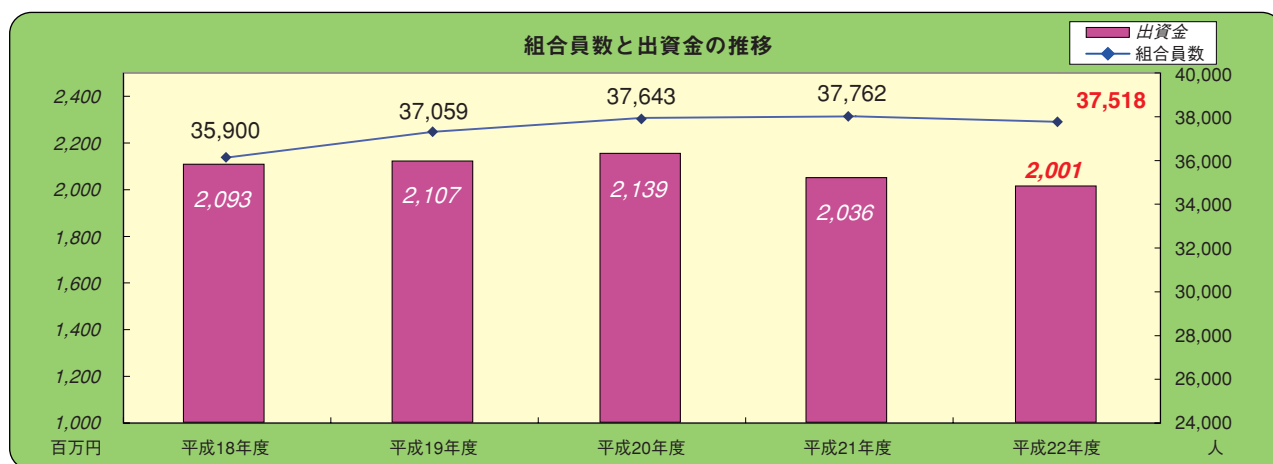
項目		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
出資金 ・ 組合員	個人	組合員	34,494	35,650	36,233	36,324	36,085
		出資金	1,622,613	1,645,487	1,683,022	1,591,575	1,570,751
	法人	組合員	1,406	1,409	1,410	1,438	1,433
		出資金	470,443	461,983	456,094	444,939	431,191
	合計	組合員	35,900	37,059	37,643	37,762	37,518
		出資金	2,093,056	2,107,470	2,139,116	2,036,514	2,001,942
出資総口数		2,093,056	2,107,470	2,139,116	2,036,514	2,001,942	
出資配当率		2.0%	2.0%	—	2.0%	2.0%	
出資に対する配当金		41,394	41,118	—	42,623	40,665	

- (注) 1. 計数は、各年度期末日現在です。
2. 出資金1口の金額は1,000円であります。

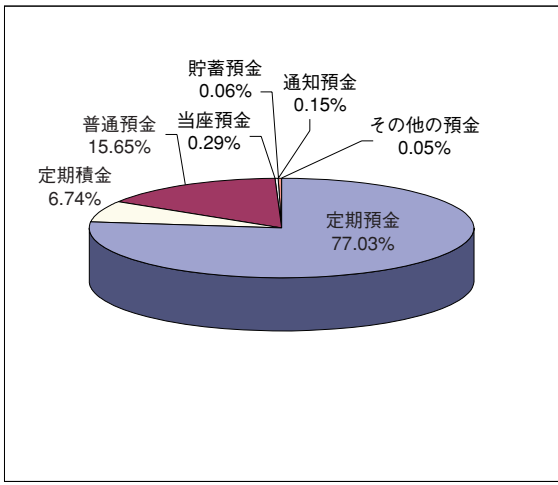
●組合員資格

- ①香川県内に住所又は居所を有する方
- ②香川県内において事業を行う小規模の事業者
- ③香川県内において勤労に従事する方

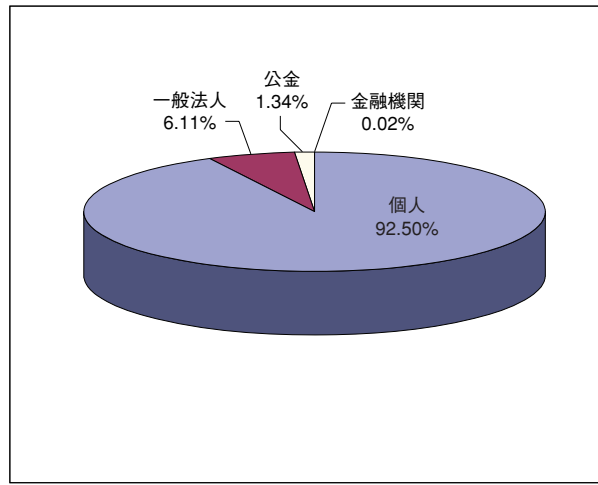
ただし、前記①②の方については、常時使用する従業員の数が300人（卸売業・サービス業100人、小売業50人）かつ法人については資本の額又は出資の総額が3億円（卸売業1億円、小売業・サービス業5千万円）を超える事業者の方は除きます。



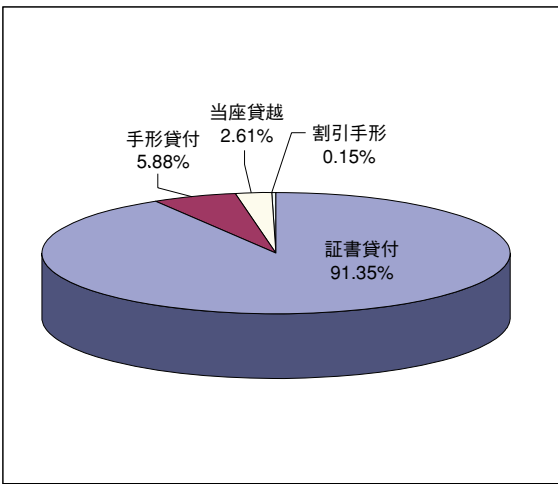
■預金科目別平均残高の構成（平成22年度）



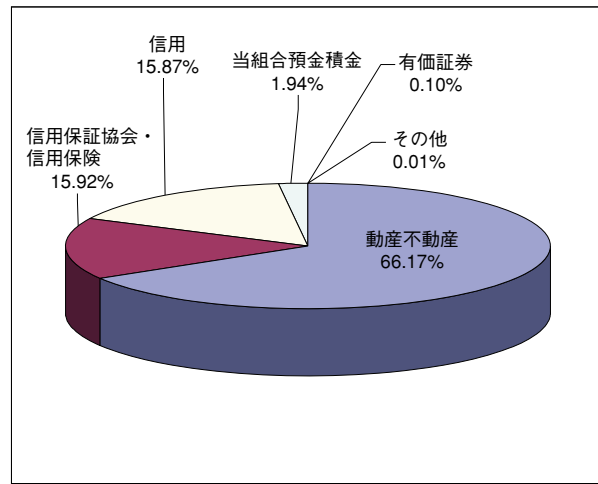
■預金者別預金残高の構成（平成22年度）



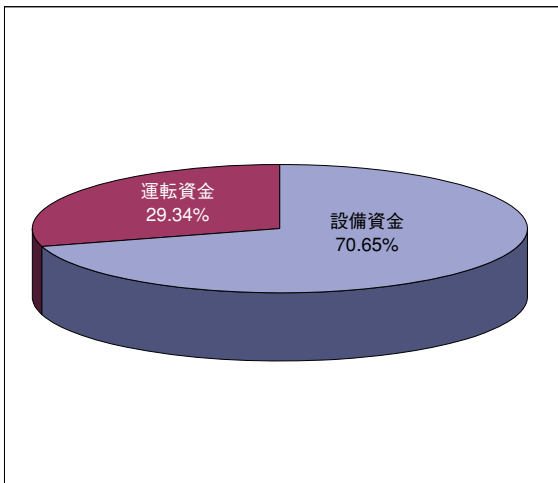
■貸出金科目別平均残高の構成（平成22年度）



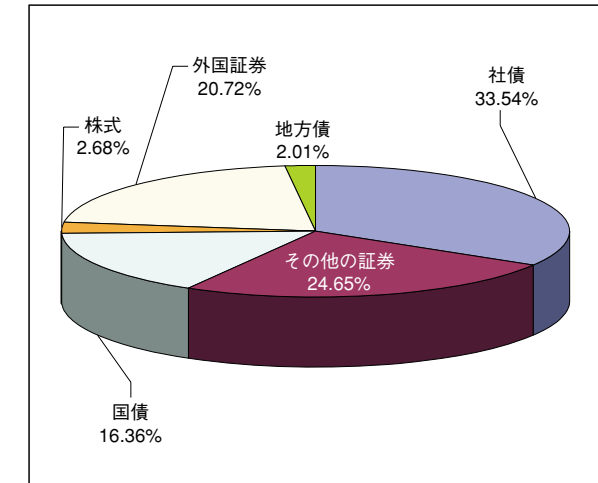
■担保別貸出金残高の構成（平成22年度）



■使途別貸出金残高の構成（平成22年度）



■有価証券種類別平均残高の構成（平成22年度）



● 損益計算書

（単位：千円）

資金運用収益

組合が、貸出金・有価証券・預け金等で運用して受け取った利息や配当金です。

役員取引等収益

為替手数料料やその他の手数料です。

資金調達費用

事業活動に必要な資金を調達するために要した費用です。主にお客さまにお支払いした預金利息です。

給付補てん備金

定期積金の給付補てん備金（利息相当額）の所要不足額を期末に繰り入れたものです。

役員取引等費用

組合が支払った為替手数料やその他の手数料、消費者ローンの保証料、住宅ローンの団体信用生命保険料です。

その他業務費用

主に債券などの取引により発生した損失金額です。

その他経常費用

主に貸倒引当金に繰り入れた金額、株式等の取引により発生した損失金額です。

貸出金償却

貸出金およびこれに準ずる債権のうち、回収不能となったものを償却しています。損益計算書では個別貸倒引当金の目的取崩額を相殺して表示しております。

科 目	平成20年度 (第57期)	平成21年度 (第58期)	平成22年度 (第59期)
経 常 収 益	3,186,901	3,103,336	3,208,284
▶ 資 金 運 用 収 益	2,888,666	2,815,899	2,692,422
貸 出 金 利 息	2,380,325	2,333,290	2,156,009
預 け 金 利 息	239,776	223,521	206,802
有 価 証 券 利 息 配 当 金	247,674	240,897	311,421
そ の 他 の 受 入 利 息	20,889	18,189	18,189
▶ 役 務 取 引 等 収 益	93,802	81,158	68,603
受 入 為 替 手 数 料	27,632	26,873	25,721
そ の 他 の 役 務 収 益	66,170	54,285	42,881
そ の 他 業 務 収 益	196,048	197,304	442,001
国 債 等 債 券 売 却 益	187,957	185,913	433,960
国 債 等 債 券 償 還 益	—	—	3,423
そ の 他 の 業 務 収 益	8,090	11,391	4,617
そ の 他 経 常 収 益	8,384	8,973	5,256
株 式 等 売 却 益	4	—	—
金 銭 の 信 託 運 用 益	—	—	—
そ の 他 の 経 常 収 益	8,380	8,973	5,256
経 常 費 用	3,308,331	2,948,810	3,078,374
▶ 資 金 調 達 費 用	435,870	377,109	275,455
預 金 利 息	424,750	365,522	263,940
給 付 補 て ん 備 金	8,659	11,082	11,297
譲 渡 性 預 金 利 息	—	—	—
借 用 金 利 息	2,277	305	—
そ の 他 の 支 払 利 息	182	199	217
▶ 役 務 取 引 等 費 用	400,087	396,264	358,504
支 払 為 替 手 数 料	13,587	13,209	12,469
そ の 他 の 役 務 費 用	386,500	383,054	346,035
▶ そ の 他 業 務 費 用	349,570	164	69,656
国 債 等 債 券 売 却 損	—	—	69,560
国 債 等 債 券 償 還 損	—	—	—
国 債 等 債 券 償 却	348,980	—	—
そ の 他 の 業 務 費 用	590	164	96
経 常 費	1,712,868	1,731,607	1,680,560
▶ 人 件 費	1,162,692	1,185,171	1,135,039
▶ 物 件 費	523,766	520,638	523,012
▶ 税 金	26,410	25,797	22,507
▶ そ の 他 経 常 費 用	409,933	443,665	694,197
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	—	301,051	449,499
貸 出 金 償 却	380,732	127,157	24,318
株 式 等 売 却 損	—	—	208,264
株 式 等 償 却	—	—	904
金 銭 の 信 託 運 用 損	—	—	—
そ の 他 資 産 償 却	17,576	12,357	4,499
退 職 給 付 費 用	—	—	—
そ の 他 の 経 常 費 用	11,624	3,098	6,711

(単位：千円)

科 目	平成20年度 (第57期)	平成21年度 (第58期)	平成22年度 (第59期)
経常利益	△ 121,430	154,525	129,909
特別利益	369,428	13,558	27,906
固定資産処分益	—	—	—
償却債権取立益	15,651	7,741	11,779
貸倒引当金戻入益	353,557	—	—
その他の特別利益	220	5,816	16,127
特別損失	23,571	12,572	2,823
固定資産処分損	610	8,416	1,393
減損損失	22,960	—	—
その他の特別損失	—	4,156	1,430
税引前当期純利益	224,427	155,511	154,992
法人税・住民税及び事業税	14,680	9,563	8,032
過年度法人税等	—	—	—
法人税等調整額	48,894	546	△ 5,423
当期純利益	160,852	145,402	152,382
前期繰越金	93,093	247,286	299,930
経営基盤強化積立金取崩額	—	—	—
土地再評価差額金取崩額	13,340	△ 30,134	—
当期末処分剰余金	267,286	362,554	452,313

特別利益

継続的に発生することのない利益額を計上しています。

償却債権取立益

貸倒れとして既に償却した貸出金・仮払金等を回収したものです。

特別損失

継続的に発生することのない損失額を計上しています。

法人税・住民税及び事業税

法人税、住民税、事業税の引当額ならびに配当利子所得税の源泉徴収された額を処理しています。

法人税等調整額

税効果会計の適用により計上される法人税、住民税、事業税の調整額を計上しています。

(注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

2. 出資1口当たりの当期純利益 74円35銭

●剰余金処分計算書

(単位：円)

科 目	平成20年度 (第57期)	平成21年度 (第58期)	平成22年度 (第59期)
当期末処分剰余金	267,286,775	362,554,388	452,313,388
特別積立金取崩額	—	—	—
計	267,286,775	362,554,388	452,313,388
剰余金処分量	20,000,000	62,623,521	60,665,102
出資に対する配当金	—	42,623,521 (年2%)	40,665,102 (年2%)
利益準備金	20,000,000	20,000,000	20,000,000
次期繰越金	247,286,775	299,930,867	391,648,286

利益準備金

出資の総額に達するまで毎事業年度の剰余金より積み立てることが義務づけられています。

●粗利益

(単位：千円)

項 目		平成21年度	平成22年度
資 金 運 用 収 支	資 金 運 用 収 益	2,815,899	2,692,422
	資 金 調 達 費 用	377,109	275,455
	資 金 運 用 収 支	2,438,790	2,416,967
役 務 取 引 等 収 支	役 務 取 引 等 収 益	81,158	68,603
	役 務 取 引 等 費 用	396,264	358,504
	役 務 取 引 等 収 支	△ 315,106	△ 289,901
そ の 他 業 務 収 支	そ の 他 業 務 収 益	197,304	442,001
	そ の 他 業 務 費 用	164	69,656
	そ の 他 業 務 収 支	197,140	372,345
業 務 粗 利 益		2,320,824	2,499,410
業 務 粗 利 益 率		2.02%	2.15%

資金運用収支

貸出金や有価証券の受取利息から預金等の支払利息を控除したものです。

役務取引等収支

振込や各種サービスの提供に伴う手数料の収支です。

その他の業務収支

外国為替や国債等債券の売買による損益の収支です。

業務粗利益

業務純益に経費と一般貸倒引当金の純繰入額を加えた利益額で、事業の収益性を示す指標の一つです。

●資金運用勘定・調達勘定の平均残高、利息、利回

(単位：千円、%)

項 目		平成21年度	平成22年度	
資 金 運 用 勘 定	平 均 残 高	114,804,126	115,762,081	
	利 息	2,815,899	2,699,422	
	利 回	2.45	2.32	
	う ち 貸 出 金	平 均 残 高	67,906,808	66,447,153
		利 息	2,333,290	2,156,009
		利 回	3.43	3.24
	う ち 預 け 金	平 均 残 高	27,827,336	28,895,276
		利 息	223,521	206,802
		利 回	0.80	0.71
	う ち 有 価 証 券	平 均 残 高	18,615,281	19,964,951
		利 息	240,897	311,421
		利 回	1.29	1.55
う ち そ の 他	平 均 残 高	454,700	454,700	
	利 息	18,189	18,189	
	利 回	4.00	4.00	
資 金 調 達 勘 定	平 均 残 高	112,037,792	112,965,668	
	利 息	377,109	275,455	
	利 回	0.33	0.24	
	う ち 預 金 積 金	平 均 残 高	111,902,173	112,885,486
		利 息	376,605	275,237
		利 回	0.33	0.24
	う ち 借 用 金	平 均 残 高	95,232	36,898
		利 息	305	—
		利 回	0.32	—
	う ち そ の 他	平 均 残 高	40,385	43,282
		利 息	199	217
		利 回	0.49	0.50

●役務取引の状況

(単位：千円)

項 目		平成21年度	平成22年度
役 務 取 引 等 収 益	役 務 取 引 等 収 益	81,158	68,603
	受 入 為 替 手 数 料	26,873	25,721
	そ の 他 の 役 務 収 益	54,285	42,881
役 務 取 引 等 費 用	役 務 取 引 等 費 用	396,264	358,504
	支 払 為 替 手 数 料	13,209	12,469
	そ の 他 の 役 務 費 用	383,055	346,035

●受取利息・支払利息の増減

(単位：千円)

項目	平成21年度	平成22年度
受取利息の増減	△ 72,765	△ 123,476
支払利息の増減	△ 58,760	△ 101,654

●その他業務収益の状況

(単位：千円)

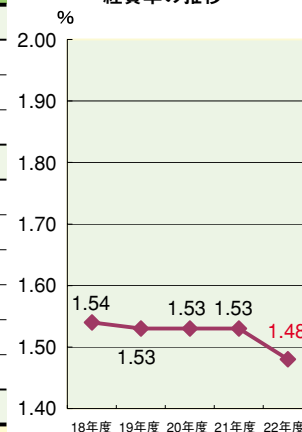
項目	平成21年度	平成22年度
外国為替売買益	—	—
商品有価証券売買益	—	—
国債等債券売却益	185,913	433,960
国債等債券償還益	—	3,423
その他の業務収益	11,391	4,617
その他業務収益合計	197,304	442,001

●経費の内訳

(単位：千円)

項目	平成21年度	平成22年度
人件費	1,185,171	1,135,039
報酬給料手当	969,761	925,714
退職給付費用	89,461	84,174
社会保険料等	125,949	125,150
物件費	520,638	523,012
事務費	229,960	222,514
固定資産費	80,783	69,255
事業費	40,079	38,913
人事厚生費	22,477	24,066
預金保険料	90,673	92,263
その他	56,664	75,999
税金	25,797	22,507
経費合計	1,731,607	1,680,560

経費率の推移



●諸比率・利回の状況

(単位：%)

項目	平成21年度	平成22年度
総資産経常利益率	0.13	0.10
総資産当期純利益率	0.12	0.12
資金運用利回	2.44	2.32
資金調達原価率	1.87	1.72
総資金利鞘	0.58	0.60
預貸率	期中平均	60.68
	期末	60.66
預証率	期中平均	16.63
	期末	16.73

総資産経常利益率

資産規模に対する利益の比率を見る指標です。

総資産当期純利益率

総資産に対する当期純利益の割合を表したものです。

総資金利鞘

運用資金全体の収益力を見る指標です。

預貸率

預金量に対する貸出金の比率を表したものです。

預証率

預金量に対する有価証券の保有割合を表したものです。

(注) 総資産経常(当期)利益率 = $\frac{\text{経常(当期)利益}}{\text{総資産(債務保証見返を除く)平均残高}} \times 100$

リスク管理債権の状況

《リスク管理債権および同債権に対する保全額》

(単位：百万円、%)

区分	年度	残高 (A)	担保・保証等 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 (B+C)/A
破綻先債権	平成21年度	99	84	14	100.00
	平成22年度	26	21	5	100.00
延滞債権	平成21年度	1,714	1,053	640	98.80
	平成22年度	2,034	1,252	747	98.28
3ヵ月以上延滞債権	平成21年度	16	15	3	115.38
	平成22年度	68	53	9	91.18
貸出条件緩和債権	平成21年度	176	82	18	57.03
	平成22年度	1,348	384	185	42.21
合計	平成21年度	2,007	1,236	677	95.32
	平成22年度	3,477	1,711	946	76.42

- (注) 1. 「破綻先債権」は、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸出償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号のいずれかに該当する次の債務者に対する貸出金です。
- イ. 会社更生法等の規定による更生手続開始の申立てがあった債務者
ロ. 民事再生法の規定による再生手続開始の申立てがあった債務者
ハ. 破産法の規定による破産の申立てがあった債務者
- 二. 会社法の規定による特別清算開始の申立てがあった債務者
ホ. 手形交換所の取引停止処分を受けた債務者
ヘ. 海外の法律により、上記に準ずる法律上の整理手続開始の申立てがあった債務者
2. 「延滞債権」は、上記1. および債務者の経営再建または支援（以下「経営再建等」という。）を図ることを目的として、利息の支払いを猶予したものの以外の未収利息不計上貸出金です。
3. 「3ヵ月以上延滞債権」は、元本または利息の支払いが約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している貸出金（上記1. および2. を除く）です。
4. 「貸出条件緩和債権」は、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸出金（上記1. ～3. を除く）です。
5. 「担保・保証等（B）」は、自己査定に基づく担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額です。
6. 「貸倒引当金（C）」は、リスク管理債権区分の各項目の貸出金に対して引当てた金額を記載しており、リスク管理債権以外の貸出金等に対する貸倒引当金は含まれておりません。
7. これらの開示額は、担保処分による回収見込額、保証による回収が可能と認められる額や既に引当てている個別貸倒引当金を控除する前の金額であり、全てが損失となるものではありません。

金融再生法開示債権の状況

《金融再生法開示債権および同債権に対する保全額》

(単位：百万円、%)

区分	年度	債権額 (A)	担保・保証等 (B)	貸倒引当金 (C)	保全額 (D)=(B)+(C)	保全率 (D)/(A)	貸倒引当金 引当率 (C)/(A-B)
破産更生債権およびこれらに 準ずる債権	平成21年度	895	708	185	894	99.88	99.43
	平成22年度	805	608	197	805	100.00	100.00
危険債権	平成21年度	923	433	470	903	97.88	96.01
	平成22年度	1,259	666	558	1,225	97.30	94.10
要管理債権	平成21年度	193	98	21	119	62.03	22.77
	平成22年度	1,417	437	194	631	44.53	19.80
開示債権計	平成21年度	2,011	1,240	677	1,917	95.33	87.82
	平成22年度	3,481	1,712	949	2,661	76.44	53.65
正常債権	平成21年度	66,157					
	平成22年度	62,001					
合計	平成21年度	68,169					
	平成22年度	65,482					

- (注) 1. 「金融再生法開示債権の状況」は、当組合の保有する債権（貸出金・貸付有価証券・外国為替・未収利息・仮払金・債務保証見返）について、債務者の財政状態および経営成績等を基礎として4区分しております。
2. 「破産更生債権およびこれらに準ずる債権」は、破産、会社更生、民事再生手続開始申立等の事由により、経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。
3. 「危険債権」は、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができていない可能性の高い債権です。
4. 「要管理債権」は、「3ヵ月以上延滞債権」および「貸出条件緩和債権」に該当する債権です。
5. 「正常債権」は、債務者の財政状態および経営成績に特に問題がない債権で、「破産更生債権およびこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。
6. 「担保・保証等（B）」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
7. 「貸倒引当金（C）」は、「正常債権」に対する一般貸倒引当金を控除した貸倒引当金です。
8. 金額は決算後（償却後）の計数です。

預金業務

●預金科目別残高

(単位：千円)

科 目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
当座預金	442,561	400,134	497,843	314,342	316,988
普通預金	16,589,990	15,972,357	16,690,174	17,334,021	17,207,271
貯蓄預金	69,400	63,761	68,635	72,671	71,597
通知預金	114,230	119,641	129,019	260,775	177,762
定期預金	83,212,854	85,049,852	84,646,316	85,200,556	87,646,142
固定金利定期	83,212,854	85,049,852	84,646,316	85,200,556	87,646,142
変動金利定期	—	—	—	—	—
定期積金	9,250,222	8,776,920	8,303,476	7,929,224	7,475,376
その他の預金	404,869	449,032	541,233	767,198	587,821
合 計	110,084,128	110,831,701	110,876,700	111,878,791	113,482,958

●預金科目別平均残高

(単位：千円、%)

科 目	平成21年度	構成比	平成22年度	構成比
当座預金	434,309	0.38	330,098	0.29
普通預金	17,390,654	15.54	17,673,736	15.65
貯蓄預金	71,644	0.06	74,085	0.06
通知預金	143,392	0.12	172,000	0.15
定期預金	85,728,275	76.61	86,960,265	77.03
固定金利定期	85,728,275	76.61	86,960,265	77.03
変動金利定期	—	—	—	—
定期積金	8,069,820	7.21	7,613,841	6.74
その他の預金	64,077	0.05	61,458	0.05
合 計	111,902,173	100.00	112,885,486	100.00

●預金者別預金残高

(単位：百万円、%)

区 分	平成21年度	構成比	平成22年度	構成比
個人	103,732	92.71	104,977	92.50
法人	8,145	7.28	8,505	7.49
一般法人	7,012	6.26	6,944	6.11
金融機関	142	0.12	32	0.02
公金	991	0.88	1,528	1.34
合 計	111,878	100.00	113,482	100.00

●職員1人当たり・1店舗当たりの預金残高

(単位：千円)

区 分	平成21年度	平成22年度
職員1人当たりの預金残高	570,810	578,994
1店舗当たりの預金残高	6,215,488	6,304,608

融資業務

●貸出金科目別残高

(単位：千円)

科 目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
割 引 手 形	275,313	177,062	146,724	172,800	89,538
手 形 貸 付	4,167,914	3,990,740	3,724,031	3,853,343	3,603,837
証 書 貸 付	56,705,935	59,843,702	62,839,181	62,001,483	59,860,219
うち固定金利扱い	22,143,037	26,789,160	30,388,820	30,624,678	30,229,177
うち変動金利扱い	34,562,898	33,054,542	32,450,361	31,376,805	29,631,042
当 座 貸 越	2,376,721	2,171,747	2,009,312	1,846,035	1,698,513
合 計	63,525,884	66,183,253	68,719,250	67,873,663	65,252,109

●貸出金科目別平均残高

(単位：千円、%)

科 目	平成21年度	構成比	平成22年度	構成比
割 引 手 形	127,898	0.18	101,106	0.15
手 形 貸 付	3,752,798	5.52	3,907,143	5.88
証 書 貸 付	62,125,449	91.48	60,703,511	91.35
当 座 貸 越	1,900,662	2.79	1,735,392	2.61
合 計	67,906,808	100.00	66,447,153	100.00

●貸出金業種別残高

(単位：千円、%)

区 分	平成21年度		平成22年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
製 造 業	1,886,883	2.77	1,820,269	2.78
農 業	641,101	0.94	669,489	1.02
林 業	—	—	—	—
漁 業	30,919	0.04	25,982	0.03
鉱 業	—	—	7,932	0.01
建 設 業	1,780,064	2.62	1,720,080	2.63
電気・ガス・熱供給・水道業	42,361	0.06	32,150	0.04
情 報 通 信 業	48,400	0.07	85,000	0.13
運 輸 業	1,694,349	2.49	1,599,877	2.45
卸 売 ・ 小 売 業	3,683,347	5.42	3,188,126	4.88
金 融 、 保 険 業	1,602,464	2.36	2,102,581	3.22
不 動 産 業	8,823,216	12.99	8,360,538	12.81
各 種 サ ー ビ ス 業	10,513,234	15.48	10,191,505	15.61
そ の 他 の 産 業	776,372	1.14	602,993	0.92
小 計	31,522,714	46.44	30,406,528	46.59
地 方 公 共 団 体	3,284,431	4.83	3,655,902	5.60
個人(個人事業主含む)	33,066,517	48.71	31,189,678	47.79
合 計	67,873,663	100.00	65,252,109	100.00

●貸出金使途別残高

(単位：千円、%)

区 分	平成21年度	構成比	平成22年度	構成比
運 転 資 金	20,723,953	30.53	19,149,688	29.34
設 備 資 金	47,149,709	69.46	46,102,420	70.65
合 計	67,873,663	100.00	65,252,109	100.00

●貸出金及び債務保証見返の担保別残高

(単位：千円)

区 分	平成21年度		平成22年度	
	貸 出 金	債務保証見返	貸 出 金	債務保証見返
当 組 合 預 金 積 金	1,360,586	10,300	1,263,030	10,800
有 価 証 券	75,888	—	65,223	—
動 産 不 動 産	45,848,333	30,387	43,178,047	24,044
そ の 他	—	—	—	—
小 計	47,284,808	40,687	44,506,301	34,844
信用保証協会信用保険	12,016,537	46,602	10,386,379	31,010
保 証	7,802	—	6,894	—
信 用	8,564,514	96,482	10,352,534	71,340
合 計	67,873,663	183,773	65,252,109	137,195

●消費者ローン・住宅ローン残高

(単位：千円、%)

区 分	平成21年度	構成比	平成22年度	構成比
消 費 者 ロ ー ン	7,786,000	29.63	6,106,994	25.28
住 宅 ロ ー ン	18,492,808	70.37	18,046,074	74.72
合 計	26,278,808	100.00	24,153,068	100.00

●職員1人当たり・1店舗当たりの貸出金残高

(単位：千円)

区 分	平成21年度	平成22年度
職員1人当たりの貸出金残高	346,294	332,918
1店舗当たりの貸出金残高	3,770,759	3,625,117

代理業務

●代理貸付残高の内訳

(単位：千円)

区分	平成21年度	平成22年度
全国信用協同組合連合会	5,412	5,034
商工組合中央金庫	70,626	44,055
日本政策金融公庫	73,539	62,172
住宅金融支援機構	1,877,959	1,412,651
福祉医療機構	162,037	121,377
合計	2,189,574	1,645,291

出資金

●組合員数・出資金の推移

(単位：千円、人、口)

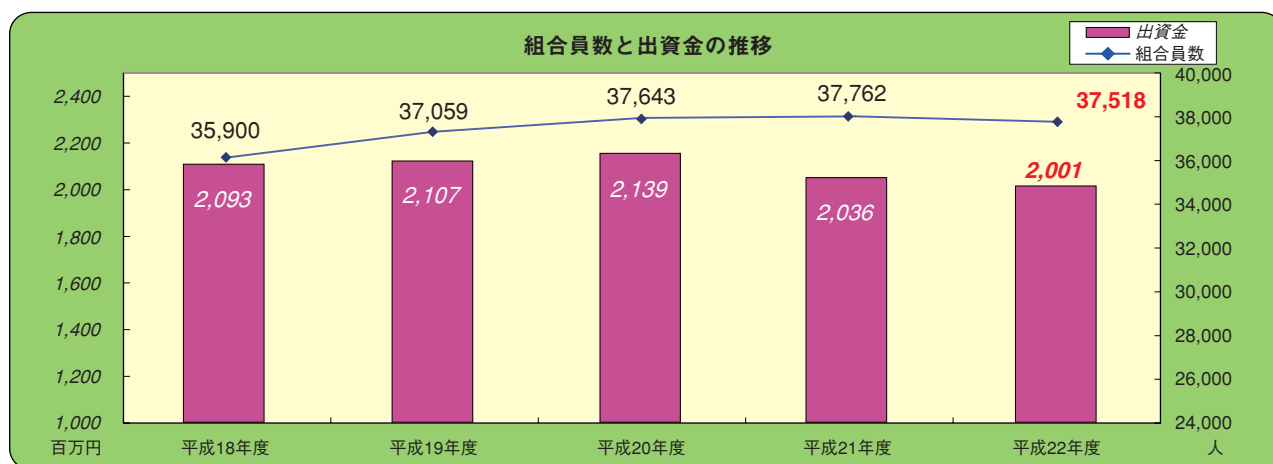
項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
出資金	個人 組合員	34,494	35,650	36,233	36,324	36,085
	個人 出資金	1,622,613	1,645,487	1,683,022	1,591,575	1,570,751
組合員	法人 組合員	1,406	1,409	1,410	1,438	1,433
	法人 出資金	470,443	461,983	456,094	444,939	431,191
合計	組合員	35,900	37,059	37,643	37,762	37,518
	出資金	2,093,056	2,107,470	2,139,116	2,036,514	2,001,942
出資総口数	2,093,056	2,107,470	2,139,116	2,036,514	2,001,942	
出資配当率	2.0%	2.0%	—	2.0%	2.0%	
出資に対する配当金	41,394	41,118	—	42,623	40,665	

- (注) 1. 計数は、各年度期末日現在です。
2. 出資金1口の金額は1,000円であります。

●組合員資格

- ①香川県内に住所又は居所を有する方
- ②香川県内において事業を行う小規模の事業者
- ③香川県内において勤労に従事する方

ただし、前記①②の方については、常時使用する従業員の数が300人（卸売業・サービス業100人、小売業50人）かつ法人については資本の額又は出資の総額が3億円（卸売業1億円、小売業・サービス業5千万円）を超える事業者の方は除きます。



為替

●内国為替取扱実績

(単位：千円、件)

区分	平成21年度		平成22年度	
	件数	金額	件数	金額
送金 他金融機関向け	35,326	26,701,181	33,595	26,290,853
振込 他金融機関から	61,112	24,699,503	59,203	23,912,953
代金 他金融機関向け	276	138,994	210	122,467
取立 他金融機関から	174	83,929	177	87,039

有価証券

●有価証券種類別残高

(単位：千円)

科目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
国債	4,282,824	4,314,715	2,794,977	4,069,076	4,132,753
地方債	—	—	—	1,259,585	891,850
社債	5,873,301	6,098,594	6,527,692	7,234,246	7,242,299
株式	476,392	321,755	366,832	380,633	98,744
外国証券	4,864,102	3,469,040	3,692,611	3,602,411	4,529,500
その他の証券	1,671,374	1,824,556	2,240,107	2,180,375	4,793,626
合計	17,167,995	16,028,661	15,622,221	18,726,328	21,688,773

●有価証券種類別残存期間別残高

(単位：千円)

科目	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	合計
国債	13,151	27,193	557,324	—	3,535,085	—	4,132,753
地方債	—	—	—	—	891,850	—	891,850
社債	797,890	2,004,220	1,059,951	498,080	2,294,998	587,160	7,242,299
株式	—	—	—	—	—	—	—
外国証券	100,000	397,370	924,778	717,410	97,500	2,093,486	4,330,544
その他の証券	—	307,040	417,420	—	291,630	—	1,016,090
合計	911,041	2,735,823	2,959,473	1,215,490	7,111,063	2,680,646	17,613,537

(注) 期間の定めがない「株式」、「投資信託」及び「その他有価証券」は除いて算出しております。

●有価証券種類別平均残高

(単位：千円、%)

科目	平成21年度		平成22年度	
	金額	構成比	金額	構成比
国債	3,241,289	17.41	3,267,037	16.36
地方債	525,038	2.82	402,568	2.01
社債	7,402,933	39.76	6,698,009	33.54
株式	588,078	3.15	536,507	2.68
外国証券	4,009,922	21.54	4,138,011	20.72
その他の証券	2,848,017	15.29	4,922,816	24.65
合計	18,615,281	100.00	19,964,951	100.00

● 有価証券の時価等情報

【満期保有目的の債券】

(単位：百万円)

項目	平成21年度			平成22年度			
	貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額	
国債	時価が貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—	—	—	
	時価が貸借対照表計上額を超えないもの	—	—	—	—	—	
	計	—	—	—	—	—	
地方債	時価が貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—	—	—	
	時価が貸借対照表計上額を超えないもの	—	—	—	—	—	
	計	—	—	—	—	—	
短期社債	時価が貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—	—	—	
	時価が貸借対照表計上額を超えないもの	—	—	—	—	—	
	計	—	—	—	—	—	
社債	時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,100	2,144	44	2,200	2,231	31
	時価が貸借対照表計上額を超えないもの	100	99	△0	150	149	△0
	計	2,200	2,243	43	2,350	2,381	31
その他	時価が貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—	—	—	—
	時価が貸借対照表計上額を超えないもの	1,699	1,130	△568	1,699	1,172	△526
	計	1,699	1,130	△568	1,699	1,172	△526
合計	時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,100	2,144	44	2,200	2,231	31
	時価が貸借対照表計上額を超えないもの	1,799	1,229	△569	1,849	1,322	△526
	計	3,899	3,374	△525	4,049	3,554	△495

- (注) 1. 時価は、当事業年度末における市場価格等に基づいております。
 2. 「社債」には、政府保証債、公社公団債、金融債、事業債が含まれております。
 3. 上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。

【その他有価証券】

(単位：百万円)

項目	平成21年度			平成22年度			
	貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額	
株式	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	1	1	0	1	1	0
	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	283	492	△208	2	3	0
	計	285	493	△208	4	4	△0
債券	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	7,036	6,915	121	4,779	4,702	77
	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	3,326	3,363	△37	5,137	5,184	△46
	計	10,362	10,279	83	9,916	9,886	30
国債	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	3,266	3,217	49	2,654	2,599	54
	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	802	805	△3	1,478	1,488	△9
	計	4,069	4,022	46	4,132	4,088	44
地方債	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	611	599	11	—	—	—
	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	648	652	△4	891	898	△6
	計	1,259	1,252	7	891	898	△6
短期社債	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	—	—	—	—	—	—
	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—
社債	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	3,158	3,098	60	2,125	2,102	22
	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	1,875	1,905	△30	2,766	2,797	△30
	計	5,034	5,003	30	4,892	4,900	△7
その他	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	1,036	1,003	33	2,080	2,017	62
	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	3,036	3,513	△476	5,543	6,216	△673
	計	4,073	4,516	△443	7,623	8,234	△610
合計	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	8,075	7,919	155	6,860	6,721	139
	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	6,646	7,369	△722	10,684	11,404	△720
	計	14,721	15,289	△567	17,545	18,126	△581

- (注) 1. 貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づいております。
 2. 「社債」には、政府保証債、公社公団債、金融債、事業債が含まれております。
 3. 上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。

【時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券】

(単位：百万円)

区分	平成21年度	平成22年度
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
非上場株式	95	94
その他	10	—
合計	105	94

証券業務

●公共債引受額

取扱いありません。

●公共債窓販額実績

(単位：千円)

種 別		平成21年度	平成22年度
国債	長期利付債10年	—	—
	個人向け利付債	6,000	8,000
合 計		6,000	8,000

お願い

けんしんは、豊かな地域社会づくりに奉仕する信用組合として、組合員をはじめ地域の皆さまからの信頼にお応えするために、法令等遵守態勢や内部管理態勢の確立に日々努めております。

お客さまに安心して
お取引していただくために

- 当組合では、お客さまから通帳・証書・現金などをお預りする場合には、必ず「預り証」または「受領証」を発行しております。
- お客さまには、「預り証」または「受領証」の記載内容をご確認ください。
- 「預り証」または「受領証」は、通帳・証書、現金などお表した際には、回収させていただきますので大切に保管してください。

けんしんは、お客さまとの通帳・証書、現金などのお預り、お渡しを明確にして安心してお取引を頂くことに取組んでおります。
何卒ご理解、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

ご意見・ご質問はコチラへ

TEL 087-833-3322

本店：宮崎県宮崎市（店舗管理部）
受付時間：平日9時～17時（土日・祝祭日休館）

E-mail kenshin3@ninus.ocn.ne.jp

預り証

受領証

預り証

受領証

※半信紙（20枚入り）100円、一部店舗にて発行する場合がございます。

当組合の歩み（沿革）

昭和

27	10月	高松市天神前45番地にて「讃岐信用組合」を設立 ／本店、坂出、琴平、観音寺、仏生山各支所を開設
29	3月	「香川県信用組合」に名称変更
30	6月	小豆島支所を開設（31年5月に内海支所へ変更）
	8月	土庄、川東支所を開設
31	6月	長尾、三本松支所を開設
32	5月	「支所」を「支店」に変更、円座支店を開設
33	6月	丸亀支店を開設
35	4月	琴平支店を開設
	5月	坂出支店を開設
	7月	南支店を開設
	10月	屋島支店を開設
	10月	国民金融公庫代理業務の取扱開始
	12月	内海支店を新築移転開店
36	10月	高瀬支店を開設
	12月	新橋支店を開設
37	8月	三本松支店を新築開店
	11月	創立10周年記念式典を開催
38	12月	花園支店を開設
40	7月	西通町支店を開設
41	4月	住宅金融公庫代理業務の取扱開始
	10月	現本店ビルを新築、営業開始
42	12月	環境衛生金融公庫代理業務の取扱開始
43	1月	円座、仏生山支店新店舗へ移転、営業開始
44	3月	坂出支店新店舗へ移転、営業開始
45	8月	NHK受信料口座振替業務の取扱開始
	9月	内国為替業務の取扱開始
47	10月	創立20周年記念式典を開催
48	3月	預金量100億円達成
49	4月	日本電信電話公社収入金収納事務の取扱開始
50	6月	香川県公金収納事務の取扱開始
	9月	コンピュータ導入し始動
51	4月	四国電力(株)の電気料金収納事務の取扱開始
	8月	南支店新築移転、栗林支店に名称変更
	9月	預金量200億円達成
52	10月	創立25周年記念総決起大会、運動会を開催
54	7月	預金量300億円達成
	9月	土庄支店新築移転開店
55	12月	仏生山支店新築移転開店
56	11月	創立30周年記念総決起大会を開催
	12月	預金量400億円達成
57	8月	中央支店を開設
58	2月	円座支店を移転開店
	5月	預金業務のオンラインシステムスタート
59	7月	全国銀行為替データ通信に加盟
	12月	川東支店を新築移転開店
60	7月	融資業務のオンラインシステムスタート ／志度支店開店
	10月	預金量500億円達成
61	7月	けんしんキャッシュサービスを開始
62	10月	ふるさと香川オンラインサービスを開始 ／琴平支店を新築開店 ／創立35周年記念式典を開催
63	6月	預金量600億円達成
	11月	新橋支店を新築開店

平成

元	7月	預金量700億円達成
	8月	長尾支店新築移転開店
2	7月	預金量800億円達成
	8月	高松市市制100周年記念「高松まつり」の総おどりに参加
	11月	全国信組キャッシュサービス、全国キャッシュサービスを開始 ／観音寺支店新築移転開店
3	9月	サンデーバンキングを開始
	12月	預金量900億円達成
4	10月	創立40周年記念式典を開催
	12月	預金量1,000億円達成
5	4月	香川県庁ロビー共同出張所を設置
6	1月	全国信用組合共同センターに加盟、業務開始
	3月	証券（国債窓販）業務の認可
	6月	渉外支援システムを導入
	7月	香川町役場共同出張所を設置
7	1月	懸賞金付定期預金「瀬戸の夢」発売開始
	10月	けんしん年金友の会発足
8	4月	香南町役場共同出張所を設置
	6月	味わい積金「ラーメン紀行」発売開始 ／長尾町役場共同出張所を設置
	11月	味わい積金「つけもの紀行」発売開始
9	10月	クライアントサーバーシステムを導入
	12月	国民金融公庫代理貸付の取扱いを全店で開始
10	9月	組合員を対象に、CD利用手数料返戻サービスを開始
	11月	懸賞付定期預金「味わい定期」発売開始
11	5月	共同センターのポスト第3次システムへ移行
12	2月	三本松支店で「宝くじ」の販売開始
	3月	デビットカードの取扱開始
	4月	「しんくみ郵貯提携システム」を開始
	7月	監督権限移管後、初の金融庁検査を受査
	10月	インターネットホームページを開設
13	1月	志度町役場共同出張所を設置
	6月	琴平町役場共同出張所を設置
	5月	ATM機による土曜・日曜・祝日の入金業務を開始
	6月	外部監査法人と監査契約を締結
	7月	損害保険窓口販売業務を開始
	9月	高松天満屋共同出張所を設置
	10月	通帳・証書預り管理システムを導入 ／けんしんネット（グループウェア）を導入
14	8月	花園支店を閉鎖、新橋支店に統合 ／内海支店を土庄支店内海出張所に種類変更
	10月	高瀬支店新築移転開店
	11月	創立50周年記念式典を開催
15	2月	共同センターの次期ALMシステムを導入
16	5月	インターネット・モバイルバンキングサービスを開始
	9月	台風16号被災者に対する特別ローンの取扱開始
	10月	通帳の副印鑑制度を廃止、印鑑照合（照会）システムを導入
	11月	ペイオフ対策の一環として、決済用預金の取扱開始
	12月	個人向け国債の取扱開始
17	1月	マルチペイメントネットワークサービスの取扱開始
	9月	土庄支店内海出張所を廃止、土庄支店に統合
	12月	地域の特性を踏まえた利用者満足度アンケート調査を実施 ／香川県アスベスト対策緊急融資の取扱開始

●● 当組合の歩み（沿革）

平成

18	1月	／ 提携金融機関との統合ATM相互入金業務を開始
	2月	／ 「偽造・盗難キャッシュカード補償保険」の取扱開始 ／ 総代・組合員を対象とした「経営セミナー」及び「意見交換会」を開催
	3月	／ 401K（確定拠出年金）の取扱開始
	5月	／ 新営業支援システム「PDA」を導入
	9月	／ ICキャッシュカード、ICローンカードの取扱開始
19	3月	／ 総代・組合員を対象とした「経営セミナー」及び「意見交換会」を開催
	5月	／ 共同センターのポスト第5次システムへ移行
20	5月	／ 総代・組合員を対象とした「経営セミナー」及び「意見交換会」を開催
	8月	／ 「偽造・盗難キャッシュカード補償保険」の取扱開始
	9月	／ 屋島支店新築移転開店 ／ 屋島支店に「携帯電話電波感受装置」を設置
21	4月	／ 通信販売用総合自動車保険「そんぽ24自動車保険」の取扱開始
	6月	／ ブロック別総代意見交換会を開催
22	3月	／ 土庄支店新築移転開店／内海出長所「ATMブース」新築
	11月	／ 総代・組合員を対象とした「講演会」及び「意見交換会」を開催
23	1月	／ 新グループウェアの導入 ／ 極度型奨学ローン「チャンス」の取扱開始
	3月	／ 霧島連山新燃岳噴火被災地に対する義援金付定期預金の募集
	5月	／ 東日本大震災被災地に対する義援金活動の実施
	6月	／ 霧島連山新燃岳噴火被災地へ義援金贈呈 ／ 固定・変動金利選択型住宅ローンの取扱開始
	7月	／ 東日本大震災復興応援定期預金の募集 ／ けんしんクリエイトカードの取扱開始

金融円滑化法に基づく条件変更等の実施状況（平成21年12月～平成23年3月末）

〔お客さまが中小企業者である場合〕

	平成23年3月末	
貸付けの条件の変更等の申込みを受けた貸付債権	263件	8,395百万円
うち、信用保証協会等による債務の保証を受けていなかった貸付債権	186件	8,072百万円
うち、実行に係る貸付債権	155件	7,551百万円
うち、信用保証協会が条件変更対応保証を応諾する旨の判断を示した貸付債権	—	—
うち、謝絶に係る貸付債権	13件	382百万円
うち、信用保証協会が条件変更対応保証を応諾する旨の判断を示した貸付債権	—	—
うち、審査中の貸付債権	12件	76百万円
うち、取下げに係る貸付債権	6件	61百万円
うち、信用保証協会等による債務の保証を受けていた貸付債権	77件	323百万円
うち、実行に係る貸付債権	65件	267百万円
うち、謝絶に係る貸付債権	1件	1百万円
うち、信用保証協会等が債務の保証を応諾する旨の判断を示した貸付債権	—	—
うち、審査中の貸付債権	8件	40百万円
うち、取下げに係る貸付債権	3件	13百万円

〔お客さまが中小企業者であって、他の金融機関からの借入がある場合〕

	平成23年3月末	
信用保証協会等による債務の保証を受けていなかった貸付債権に係る債務者のうち他の金融機関に対しても法の施行日以後に貸付けの条件の変更等の申込みが行われたことを確認することができた者から、貸付けの条件の変更等の申込みを受けた貸付債権	74件	2,695百万円
うち、実行に係る貸付債権	56件	2,393百万円
うち、信用保証協会が条件変更対応保証を応諾する旨の判断を示した貸付債権	—	—
うち、謝絶に係る貸付債権	7件	226百万円
うち、他の金融機関により法の施行日以後になされた貸付けの条件の変更等の実行を認識していた場合の貸付債権	3件	138百万円
うち、審査中の貸付債権	10件	70百万円
うち、取下げに係る貸付債権	1件	5百万円

〔お客さまが住宅資金借入者である場合〕

	平成23年3月末	
貸付けの条件の変更等の申込みを受けた貸付債権	57件	777百万円
うち、実行に係る貸付債権	37件	421百万円
うち、謝絶に係る貸付債権	7件	89百万円
うち、審査中の貸付債権	5件	110百万円
うち、取下げに係る貸付債権	8件	156百万円

■ディスクロージャー項目と掲載頁

ディスクロージャー誌は、協同組合による金融事業に関する法律（協金法）第6条第1項において準用する銀行法第21条に基づいて作成しております。開示項目の頭部にある「*」印は協金法施行規則第69条第1項に定められた法定開示項目であり、「◎」印は金融再生法第7条に定められた法定開示項目です。

	信用組合開示項目	掲載頁
	◆ ごあいさつ	3
概況及び組織に関する事項	1. 事業方針	1
	2. “けんしん”の概要	3
	* 3. 事業の組織	17
	* 4. 役員一覧(理事及び監事の氏名、役職名)	18
	5. 総代及び総代会関連事項の情報開示	19
	6. 総代会、総代・組合員との意見交換会等	20
	* 7. 店舗一覧(事務所の名称、所在地)	38
	8. 自動機器設置状況	38
	9. 組合員数	59
主要事業内容及び業務に関する事項	* 10. 主要な事業の内容	21
	* 11. 事業の概況	4
	* 12. 経常収益	4・51
	13. 業務純益及びコア業務純益	7
	* 14. 経常利益	7・52
	* 15. 当期純利益	7・52
	* 16. 純資産額	4・44
	* 17. 総資産額	4・43
	* 18. 預金積金残高	4・6・44
	* 19. 貸出金残高	4・6・43
主要業務に関する指標	* 20. 有価証券残高	4・43・60
	* 21. 単体自己資本比率	4・5・9
	* 22. 出資金・出資口数	59
	* 23. 出資に対する配当金・率	59
	* 24. 職員数	4
	* 25. 業務粗利益、業務粗利益率	53
	* 26. 資金運用収支、役務取引等収支、その他業務収支	53
	* 27. 資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高、利息、利回、資金利鞘	53・54
	28. 役務取引の状況	53
	* 29. 受取利息、支払利息の増減	54
預金に関する指標	30. その他業務収益の内訳	54
	31. 経費の内訳	54
	* 32. 総資産経常利益率	54
	* 33. 総資産当期純利益率	54
	* 34. 預金科目別平均残高	56
	35. 預金科目別残高、預金者別預金残高	6・56
	36. 員外預金比率	23
	37. 職員1人当たり預金残高	56
	38. 1店舗当たり預金残高	56
	融資に関する指標	* 39. 貸出金科目別残高及び平均残高
* 40. 貸出金及び債務保証見返の担保別残高		58
* 41. 貸出金使途別残高		58
* 42. 貸出金業種別残高・構成比		6・35・57
* 43. 預貸率(期末・期中平均)		54
44. 員外貸出金比率		23
45. 消費者ローン、住宅ローン残高		58
46. 代理貸付の内訳		59
47. 職員1人当たり貸出金残高		58
48. 1店舗当たり貸出金残高		58
有価証券指標	* 49. 商品有価証券種類別の平均残高	取扱なし
	* 50. 有価証券種類別残存期間別残高	60
	* 51. 有価証券種類別の平均残高	60
	* 52. 預証率(期末・期中平均)	54

	信用組合開示項目	掲載頁
経営管理態勢	* 53. パーゼルⅡ(新しい自己資本比率規制)第3の柱に基づく各種開示事項	9
	①自己資本に関する事項	9
	②信用リスクに関する事項	11
	③信用リスク削減手法に関する事項	13
	④派生商品取引等に関する事項	14
	⑤出資等エクスポージャーに関する事項	15
	⑥金利リスクに関する事項	16
	54. “けんしん”の内部管理態勢	22
	* ①統合的リスク管理態勢	22
	* ②法令等遵守(コンプライアンス)の態勢	23
財産の状況	③本人確認に関するお願い	24
	④金融商品に係る勧誘方針	24
	⑤与信取引に関する説明態勢	24
	⑥個人情報保護宣言	25
	⑦個人情報のお取扱について	25
	⑧個人データの安全管理措置に関する方針	25
	⑨利益相反管理方針	25
	⑩反社会的勢力に対する基本方針	25
	⑪出資に関する取扱説明態勢	26
	⑫苦情相談窓口及び紛争解決窓口の設置	39
55. 振り込め詐欺対策	28	
“けんしん”の「偽造・盗難キャッシュカード対策」	29	
56. 信用組合業界における中央機関の役割	31	
その他の業務	* 57. 貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書	43・51・52
	* 58. リスク管理債権の状況及び同債権に対する保全額	55
	①破綻先債権額 ②延滞債権額	
	③3か月以上延滞債権額 ④貸出条件緩和債権	
	◎ 59. 金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額	8・55
	①破産更生債権及びこれらに準ずる債権	
	②危険債権 ③要管理債権 ④正常債権	
	* 60. 自己資本充実の状況(自己資本比率明細)	4・5・9
	* 61. 有価証券、金銭の信託等の評価	60
	62. 外貨建資産残高	取扱なし
63. オフバランス取引の状況	取扱なし	
64. 先物取引の時価情報	取扱なし	
65. オプション取引の時価情報	取扱なし	
* 66. 貸倒引当金の期末残高、期中増減額	12	
* 67. 貸出金償却額	12	
* 68. 法定監査の状況	18	
* 69. 財務諸表の正確性の検証	18	
その他	70. 内国為替取扱実績	60
	71. 外国為替取扱実績(取次)	取扱なし
	72. 公共債引受実績	取扱なし
	73. 公共債取返実績	62
	74. 手数料一覧	21
	75. 地域密着型金融の取組状況	33
	①地域経済活性化への取組み状況	33
	②融資を通じた地域貢献	35
	③取引先への支援状況等	37
	④地域サービスの充実	38
⑤各種アンケート調査結果の開示	41	
⑥文化的・社会的貢献に関する活動	40	
⑦経営改善支援の取組状況	33	
76. 金融円滑化法に基づく対応について	65	
77. 当組合の歩み(沿革)	63	